

- 1 「情報アクセシビリティ好事例2023」 一覧
 - 2 「情報アクセシビリティ好事例2023」 として取り上げる
主なポイント
 - 3 各製品の概要・審査結果
-

①「情報アクセシビリティ好事例2023」一覧

好事例2023 選定製品①

※企業名50音順

No	企業名	製品名	製品概要
1	アイシン	YYSystem	主として聴覚障害者を対象に、意思疎通支援を行うアプリケーション。「言葉」に加えて「音の雰囲気」も可視化して伝達。
2	ヴェルク	board	見積書・請求書等の書類作成や売上見込の管理等を通して、「バックオフィス業務の効率化」と「経営に必要な数字の見える化」を実現する中小企業・個人事業主向けのクラウド型業務・経営管理システム
3	オフィス結アジア	指伝話メモリ	「カードを1枚選ぶ」というシンプルな操作で、流暢な合成音声で話をする、音楽をかける・止める、メッセージやメールを送る、家電を操作するといったことができる仕組みを整えることができるiPadで使うコミュニケーション支援アプリケーション。
4	コネクトドット	ものタグアプリ	NFCタグに情報を登録し、物に貼ったそのタグをスマートフォンでスキャンし音声再生することによって物を識別するアプリケーション。大量の情報をタグの階層構造で表現し、好きな階層から読み進めることができるため、情報発信ツールとしても利用可。
5	サウザンスマイルズ	ニュースメディア thousandmiles	晴眼者(せいがんしゃ)、視覚障害者の両方を対象に、視覚の障害の有無にかかわらず、同じ情報を同じようにとれることを目指し、スクリーンリーダーでも読みやすい設計・記事内容のニュースサイト。
6	サクサ	UTM(統合脅威 管理アプライアンス)	ファイアウォール、アンチウイルス、アンチスパム、IPS、情報漏洩対策、VPN等の多彩なセキュリティ機能を統合したシステム
7	ジャパンディスプレイ	Rælclear(レルクリア)	聴覚障害者や、日本語が分からない方が、窓口等で音声認識アプリを利用してコミュニケーションを行う際に、字幕による文字情報だけでなく、相手の表情や仕草等の視覚情報も交えたコミュニケーションを可能とする機器
8	情報技術開発	Sound Display	周囲の音をAIで認識し、アプリケーション利用者に通知するスマートフォンアプリ
9	ソフトバンク	SureTalk	手話ユーザーと音声ユーザーのコミュニケーションをより円滑にするサービス
10	ナビレンス	NaviLens	視覚障害者ユーザーの移動支援や公共スペースでのアクセシビリティ向上を主な目的としたスマートフォン用無料アプリケーション
11	バーベキューアーミー	Talk to Deaf Grandmother	耳の遠くなった方に音声入力で大きな文字を表示するアプリケーション

好事例2023 選定製品②

※企業名50音順

No	企業名	製品名	製品概要
12	フィット	こえとら	音声を高精度に文字化する「音声認識」や、文字を音声にする「音声合成」技術を活用して、聴覚障害者と聞こえる人とのコミュニケーションを円滑にサポートするスマートフォンアプリケーション
13	フィット	SpeechCanvas	発話内容をリアルタイムかつ高精度にふりがな付きで文字化する「音声認識」技術を用いて、聞こえる人と聴覚障害者とのコミュニケーションをサポートするアプリケーション
14	富士通	LiveTalk	聴覚障害者とのコミュニケーションやグローバル活動の支援ツールとして、発話者の発言を音声認識し、即座に翻訳・テキスト変換することで、発言内容を複数端末にリアルタイムで翻訳・テキスト表示するWindowsアプリケーション
15	プラスヴォイス	PVRTC	手話や文字での通訳を介してコミュニケーションを図れるようにしたもの。事前準備が不要で、スマートフォンやタブレット等で即座に手話(文字)通訳者に接続ができる。
16	ヤマハ	おもてなしガイド	街中の音の情報を、自分のわかる言語の文字や音声として受け取ることができ、外国人の方、聴覚に不安のある方が安心して暮らせるよう、音のユニバーサルデザイン化をサポートするサービス
17	ユニコーン	重度障害者用意志伝達装置 miyasuku EyeConSW	ALS・SMA・筋ジストロフィー等の重度身体障害者が、視線やスイッチを活用してパソコンを操作し、日常会話や勉強・仕事を行う等、QOL向上を実現する装置
18	ラトックシステム	スマート家電コントローラ	スマートフォンでの操作や設定、スマートスピーカーを用いた音声操作により、付属のリモコンを使用せず、テレビや照明、エアコン等の家電製品の簡潔な操作を実現
19	ラトックシステム	smaliaスマートリモコン	スマートフォンでの操作や設定、スマートスピーカーを用いた音声操作により、付属のリモコンを使用せず、テレビや照明、エアコン等の家電製品の簡潔な操作を実現
20	リコー	Pekoe	会議等の場で聴覚障害者の方と聴者の方が気軽に情報保障を行いながらタイムリーに会話や議論をすることを可能にする音声認識による文字起こしシステム
21	freee	freee請求書アプリ	主に個人事業主や小規模法人等スモールビジネスを営む方が出先でも手間をかけずに、インボイス制度に対応した請求書の発行・送付を行えるスマートフォンアプリケーション。アクセシビリティを必要とする方を含めて、全ての利用者が自身の最適な状況に調整して利用可能。
22	SmartHR	SmartHR人事評価	人事・労務業務を効率化しながら蓄まった人事データの一元管理が可能な人事評価システム
23	Ubie	ユビー	症状に関連する質問に答えることで、その症状に関連する病気の詳細を調べることができる検索エンジン
24	Uni-Voice事業 企画	Uni-Voice Blind	視覚障害者向け音声コード読み取り用スマートフォンアプリケーション

②好事例として取り上げる主なポイント

「情報アクセシビリティ好事例2023」として 取り上げる主なポイント

審査項目(1)製品の情報アクセシビリティへの配慮

以下は主な取組を抜粋し整理したものです。各社においては、記載の項目以外にも優れた取組を行っているため、各製品資料についても併せてご覧ください。

■ 聴力なし、または限られた聴力での円滑なコミュニケーションや情報へのアクセスを実現

<主な製品>

- | | |
|---|-----------------------|
| 01 アイシン(YYSsystem) | 13 フィート(SpeechCanvas) |
| 07 ジャパンディスプレイ(Raelclear) | 14 富士通(LiveTalk) |
| 08 情報技術開発(Sound Display) | 15 プラスヴォイス(PVRTC) |
| 09 ソフトバンク(SureTalk) | 16 ヤマハ(おもてなしガイド) |
| 11 バーベキューアーミー(Talk to Deaf Grandmother) | 20 リコー(Pekoe) |
| 12 フィート(こえとら) | |

■ 視力なし、または限られた視力での円滑なコミュニケーションや情報へのアクセスを実現

<主な製品>

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 04 コネクトドット(ものタグアプリ) | 18・19 ラトックシステム(スマート家電コントローラ、smaliaスマートリモコン) |
| 05 サウザンスマイルズ(ニュースメディア thousandsmiles) | 23 Ubie(ユビー) |
| 10 ナビレンス(NaviLens) | 24 Uni-Voice事業企画(Uni-Voice Blind) |

■ 発話や筆談等が難しい方との円滑なコミュニケーションを実現

<主な製品>

- 03 オフィス結アジア(指伝話メモリ)
- 17 ユニコーン(重度障害者用意志伝達装置 miyasuku EyeConSW)

■ 障害等によらない就労を実現

<主な製品>

- 02 ヴェルク(board)
- 06 サクサ(UTM)
- 21 freee(freee請求書アプリ)
- 22 SmartHR(SmartHR人事評価)

「情報アクセシビリティ好事例2023」として 取り上げる主なポイント

審査項目(2)障害当事者等のニーズを踏まえた開発

以下は主な取組を抜粋し整理したものです。各社においては、記載の項目以外にも優れた取組を行っているため、各製品資料についても併せてご覧ください。

■ 企画段階から障害当事者等の意見を踏まえた開発や検証を行っている

<主な製品>

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 01 アイシン(YYSystem) | 10 ナビレンス(NaviLens) |
| 05 サウザンスマイルズ(ニュースメディアthousandmiles) | 15 プラスヴォイス(PVRTC) |
| 06 サクサ(UTM) | 21 freee(freee請求書アプリ) |
| 07 ジャパンディスプレイ(Raelclear) | 23 Ubie(ユビー) |
| | 24 Uni-Voice事業企画(Uni-Voice Blind) |

■ 障害当事者だけではなく、支援者や専門家等に幅広く意見を聞いて開発を行っている

<主な製品>

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 02 ヴェルク(board) | 09 ソフトバンク(SureTalk) |
| 03 オフィス結アジア(指伝話メモリ) | 12 フィート(こえとら) |
| 04 コネクトドット(ものタグアプリ) | 16 ヤマハ(おもてなしガイド) |
| 08 情報技術開発(Sound Display) | |

■ 障害当事者自らが開発者となっている

<主な製品>

- 14 富士通(LiveTalk)
- 22 SmartHR(SmartHR人事評価)

■ 障害当事者や利用者等の意見を踏まえた改善を行っている

<主な製品>

- 11 バーベキューアーミー(Talk to Deaf Grandmother)
- 13 フィート(SpeechCanvas)
- 17 ユニコーン(重度障害者用意志伝達装置 miyasuku EyeConSW)
- 18・19 ラトックシステム(スマート家電コントローラ、smaliaスマートリモコン)
- 20 リコー(Pekoe)

「情報アクセシビリティ好事例2023」として 取り上げる主なポイント

審査項目(3)企業としての情報アクセシビリティ確保に向けた取組

以下は主な取組を抜粋し整理したものです。各社においては、記載の項目以外にも優れた取組を行っているため、各製品資料についても併せてご覧ください。

■ 情報アクセシビリティに関して、全社としての考え方や方針・ルールを策定し、共有している

<主な製品>

- 03 オフィス結アジア(指伝話メモリ)
- 04 コネクトドット(ものタグアプリ)

21 freee(freee請求書アプリ)

■ 全社で標準的にアクセシビリティについて取り組むための仕組み(レビュー体制、チーム等)を構築している

<主な製品>

- 02 ヴェルク(board)
- 06 サクサ(UTM)
- 09 ソフトバンク(SureTalk)

- 10 ナビレンス(NaviLens)
- 22 SmartHR(SmartHR人事評価)
- 23 Ubie(ユビー)

■ 企業理念として、ダイバーシティ&インクルージョン等を掲げている

<主な製品>

- 01 アイシン(YYSystem)
- 07 ジャパンディスプレイ(Raelclear)
- 14 富士通(LiveTalk)

- 16 ヤマハ(おもてなしガイド)
- 20 リコー(Pekoe)

■ 企業として障害当事者や障害者団体と連携する等の当事者ニーズを取り込む枠組を構築している

<主な製品>

- 05 サウザンスマイルズ(ニュースメディアthousandmiles)
- 08 情報技術開発(Sound Display)

- 12・13 フィート(こえとら、SpeechCanvas)
- 24 Uni-Voice事業企画(Uni-Voice Blind)

■ 製品を知ってもらうための情報発信を積極的に行っている

<主な製品>

- 15 プラスヴォイス(PVRTC)
- 17 ユニコーン(重度障害者用意志伝達装置 miyasuku EyeConSW)
- 18・19 ラトックシステム(スマート家電コントローラ、smaliaスマートリモコン)

③各製品の概要・審査結果

① (株)アイシン YYSsystem

① (株)アイシン YYSsystem (概要)

企業名	株式会社アイシン
機器・サービス名	YYSsystem
問合せ先	シェアリングソリューション部 バリユープランニング室 YYSsystem事業推進グループ 日下 (https://yysystem.com/contact)
機器・サービスの概要	<p>本アプリは、主として聴覚障害者を対象に、意思疎通支援を行うアプリケーションです。「言葉」に加えて「音の雰囲気」も可視化して伝えます。</p> <p>「いつでも、どこでも、誰とでも会話ができる」ことを目指し、私生活から仕事まで一日をさまざまなアプリケーションでトータルサポートいたします。</p>
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高い音声認識性能： 高い認識精度のリアルタイム文字起こしを実現。ノイズ対策やユーザー辞書機能などで円滑なコミュニケーションを実現 ● 環境音をオノマトペ表示： 拍手や笑い声などを認識し、オノマトペにして表示することで場の雰囲気や環境の理解を促進 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 画面表示設定：ユーザーは、アプリそれぞれの画面のフォント拡大が可能です。背景色・前景色を白または黒色への選択、文字の幅は40文字以下にすることも可能です。 ● 非テキストコンテンツに代替テキストを付与し、一部の非コンテンツには意味を表すアイコンを使用しています。 ● 過去およびリアルタイムに収録した音声データに対して、文字起こしした結果(テキスト)を表示しています。 ● テキストの入力はキーボードでの入力が可能です。

① (株)アイシン YYSystem (概要)



YY文字起こし

YY雰囲気カメラ

YY文字起こし

YY雰囲気カメラ

救急車や電車の接近がわかる

オノマトペや笑い声を文字やアイコンにして表示



① (株)アイシン YYSystem (概要)

<p>当事者ニーズを踏まえた開発</p>	<p>開発段階で、聴覚障がい当事者に利用していただき当事者ご本人のリクエストを基に改修を継続しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 社内では、実際に就業する職場で利用し、聴覚障がい当事者のみでなく共に働く上司や同僚の意見も機能に追加しました。 • 一般ユーザーはLINEオープンチャットやDMにて聴覚障がい当事者からの意見を参考に、必要な機能の開発を継続的に行っています。
<p>企業としての取組</p>	<p>アイシングループにおける障がい者雇用管理を一括で担う特例子会社「アイシンウェルスマイル」との連携により、社内で就業する265名の聴覚障がい者とその上司を対象に関係機材一式の配布と説明会を実施しました。利用する当事者本人が不利益を被ることのなき様 運用ルールを定め、社内関係者への周知活動を徹底して行いました。</p> <p>日常の運用上の相談や質問は、専用のHPから受付し、メールでの対応を行っています。</p>

① (株)アイシン YYSystem (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 「いつでも、どこでも、誰とでも会話ができる」ことに加え、生活環境音や笑い声を可視化できる。聴覚障害のある人がコミュニケーションで取り残されない、安心して暮らせる社会に貢献している。
- スマートフォン単体で利用できる聴覚障害者向けのアプリケーションとして、よい認識精度である。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 個人的に実際に使用したことがあるが、非常に配慮されていると感じる。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 発話者の感情やその場の雰囲気把握するための音声の強弱等の表現ができるよう期待する。
- 発話された内容をわかりやすい文章に変換する機能の搭載を期待する。
- 音声を手話に変換して表示できる機能の搭載を期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- —

① (株)アイシン YYSystem (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 聴覚障害者の意見を聞いて開発しており、改良にあたって健聴者の意見も取り入れている。
- グッドデザイン賞金賞を受賞している。

4. 企業としての取組について、優れている点

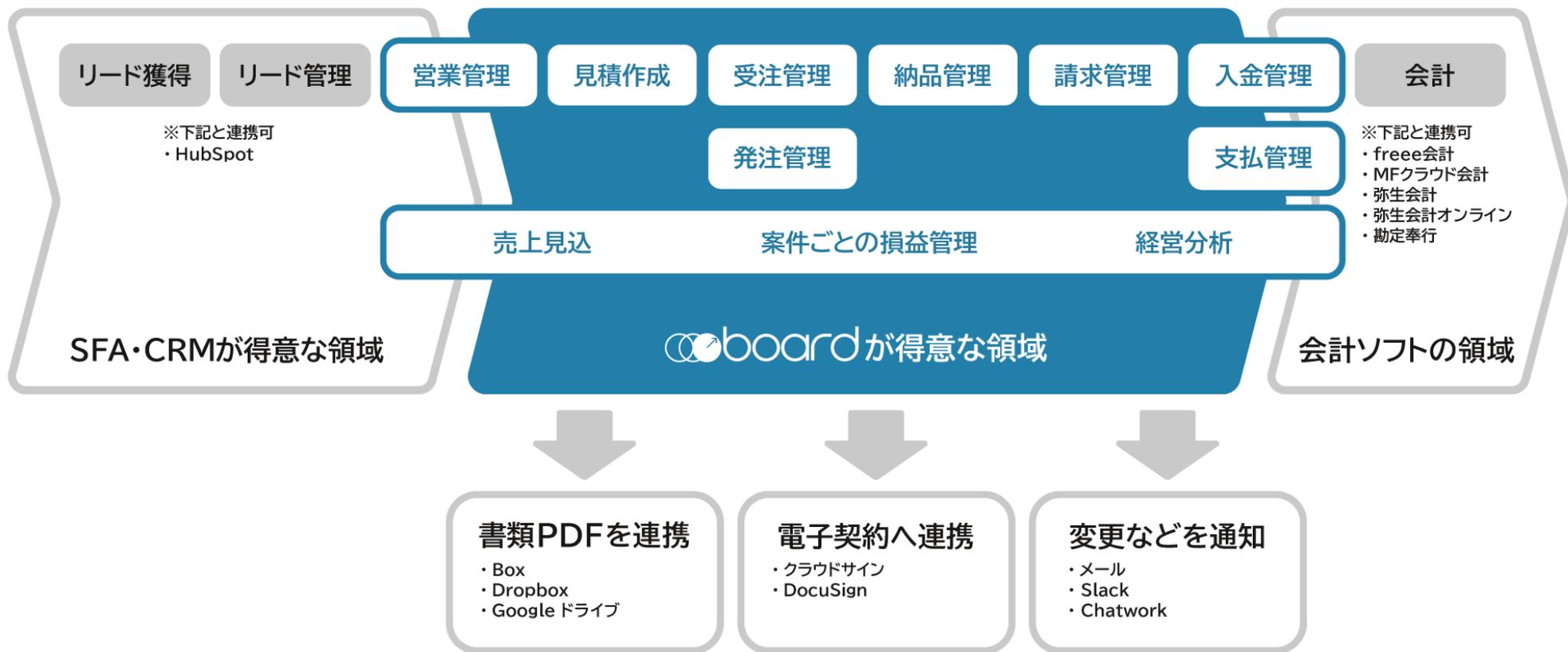
- グループ会社に就業している障害者が活躍できるような配慮がなされている。
- 機器についての相談や質問にメールで対応している。
- ダイバーシティ&インクルージョンを掲げるだけでなく、実際に取り組んでいる。

② ヴェルク(株) board

② ヴェルク(株) board (概要)

企業名	ヴェルク株式会社
機器・サービス名	board (https://the-board.jp/)
問合せ先	support/atmark/the-board.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	見積書・請求書などの書類作成や売上見込の管理などを通して、「バックオフィス業務の効率化」と「経営に必要な数字の見える化」を実現する中小企業・個人事業主向けのクラウド型業務・経営管理システムです。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● インボイス制度に対応した請求書をはじめ、見積書・発注書・納品書・領収書・支払通知書などのさまざまな書類を作成できます。作成した書類は、PDF出力・メール・郵送・電子契約サービス経由での送付などが可能です。 ● 受発注を紐付けることにより、案件単位での損益管理を行えます。 ● 案件の情報は自動的に集計機能に反映され、いつでも売上の見込みなどを確認できます。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構の協力を得て、100画面以上ある全画面を対象に、色弱(P型・D型)の方でも識別しやすい色使いのカラーユニバーサルデザインに対応しています。 ● JIS X 8341-3:2016の「適合レベルAA」を目標とし、継続的な検証・改善に取り組んでいます。 ● boardで作成する書類(見積書・請求書など)のPDFにUDフォントを採用しています。これにより、board利用者だけでなく、見積書・請求書などを受領した方にとっても見やすさの改善が期待できます。

② ヴェルク(株) board (概要)



② ヴェルク(株) board (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

boardの初期開発当初(2014年)はアクセシビリティを考慮した開発は行っていませんでしたが、2019年以降、各分野の専門家に協力を得ながら、アクセシビリティの改善に取り組んでいます。

- 2019年に、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)の協力を得て、100画面以上ある全画面を対象に、色弱(P型・D型)の方でも識別しやすい色使いに変更し、CUDOが発行するCUD認証を取得しました。
- 2021年より、株式会社ディーゼロにアクセシビリティ改善の支援をいただき、JIS X 8341-3:2016の「適合レベルAA」を目標とし、継続的に検証・改善を進めています。
- 2023年には、boardで作成できる書類(請求書など)のPDFに、株式会社モリサワが提供するUDフォントを導入しました。これにより、ロービジョン・ディスレクシアなどの方が請求書等の書類を受領した際の見やすさが改善できる可能性があります。

企業としての取組

アクセシビリティに関して、以下のような取り組みを行なっております。

- boardというサービスの中で直接的にアクセシビリティの改善に取り組む開発メンバー以外にも、継続的に情報の共有を行うようにしています。
- システムそのものだけでなくヘルプもアクセシブルするため、ヘルプの更新を行うサポートチーム向けに、アクセシビリティを考慮したヘルプの書き方のガイドラインを作成しました。
- 開発チーム内のレビューの中で、アクセシビリティに影響する箇所についてフィードバックするようにしています。
- NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構の企業賛助会員となっており、アクセシビリティに関する活動の支援も行なっています。

② ヴェルク(株) board (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 様々な職種の色々な人が担当することを視野に入れている。
- 本システムの普及が進めば、障害者の就労機会を増やしていくことができる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- JIS X 8341-3における配慮必要項目の達成に向けて取り組んでいる。
- 一般製品で色弱の人へ配慮されているものは少ないため、貴重である。
- 色覚障害者への配慮やカラーユニバーサルデザインの導入、UDフォントの使用等に取り組んでいる。
- アクセシビリティに加えユーザビリティの観点でも評価できる。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

—

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 本システムは、事務部門で働く視覚障害者が使用する可能性が高く、そのサポート体制をより充実していくことを期待している。
- 業務用ソフトウェアでPDFを作成する際、アクセシビリティの確保は後回しにされがちである。特に、HTMLベースの資料をPDFに変換する際に、読み上げ機能等のアクセシビリティが考慮されないことがある。将来的には、PDF帳票が読み上げ機能に対応するようになることを期待している。

② ヴェルク(株) board (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 製品のアクセシビリティ向上に専門家の協力を得て取り組んでいる。具体的には、NPOカラーユニバーサルデザイン機構を介した色の使い方の配慮、CUD認証の取得、モリサワ等との連携によるシステムの改善。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 企業全体として、アクセシビリティへの取組が評価できる。JIS X 8341-3のレベルAAを目標に掲げており、好印象である。
- アクセシビリティに関するフィードバックを開発部門内で共有、カラーユニバーサルデザイン機構への参画が行われている。
- 開発過程でアクセシビリティへの意識が高まり、障害者就労に役立つシステムとなった。
- 一般製品のアクセシビリティ向上にも取り組んでいるのがよい。

③ (有)オフィス結アジア 指伝話メモリ

③ (有)オフィス結アジア 指伝話メモリ(概要)

企業名	有限会社オフィス結アジア
機器・サービス名	指伝話メモリ
問合せ先	高橋宜盟(たかはし・よしあき) メール info/atmark/yubidenwa.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。 電話 0466-21-7448
機器・サービスの概要	iPadで使うコミュニケーション支援アプリです。「カードを1枚選ぶ」というシンプルな操作で、流暢な合成音声で話をする、音楽をかける・止める、メッセージやメールを送る、家電を操作するといったことができる仕組みを整えることができます。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 写真や絵を使ったカードに流暢な合成音声を加えたインタフェースを容易に作成できます。 ● 五十音表から一文字ずつ選択する方法ではなく、言葉や文章をあらかじめ登録した画面上のカードを1枚選択する操作方法で、伝えたい内容を素早く簡単に合成音声で伝えます。 ● 病気や障害で話をしづらい方のご利用だけではなく、学習教材作成、写真日記、スマートスピーカーへの話しかけや多言語での利用など、使い方は自由です。 ● 自己紹介、あいさつ、あいづち、緊急、おしゃべりなど、カテゴリ別に準備したカードを選択し、よりスムーズな会話のやり取りが可能です。 ● 使用者の病気や障害の程度に合わせたカスタマイズがし易いです。 ● 発話機能は、ネットワーク環境がない場所でも使用可能です。 ● iPadのショートカットアプリを利用して、メールやメッセージの送信や、お持ちのスマートリモコンと連動させた家電操作など、操作を楽にする設定を作ることができます。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 使用する人は、画面を指でタップする操作のほか、スイッチ・音声入力・視線入力・VoiceOverなど、さまざまな利用方法があります。 ● 利用方法は組み合わせても良く、例えば「目が見えず身体の動きが不自由な方が、こめかみの筋電位のスイッチで、指伝話メモリの画面を見ずに耳で聞いて操作する」といった使い方のインタフェースを容易に準備することができます。

③ (有)オフィス結アジア 指伝話メモリ(概要)



指伝話メモリは、絵や写真を使って会話・言語教材・笑顔日記などのiPadのアクセシビリティ機能を活用しやすいカードを自分で作ることができるコミュニケーションアプリです。
下の画面は、指伝話メモリの様々な使い方サンプルです。



③ (有)オフィス結アジア 指伝話メモリ(概要)

<p>当事者ニーズを踏まえた開発</p>	<p>企画・設計段階から、当事者とリハビリテーション専門家(言語聴覚士)の意見を聞いています。コミュニケーション支援に関するアプリであるからこそ、特定の疾患や障害に特化し過ぎてしまわないようにしました。開発・テスト段階では、さらに作業療法士も加わり、障害当事者・難病当事者と家族・支援者からの意見を取り入れました。特に画面インタフェースの工夫や、入力支援機器との連携での使いやすさについて、エンドユーザの負担が減る工夫を行っています。</p> <p>試作品のテストおよび製品リリース後の改良段階では、難病相談支援センターや福祉プラザを通じて出会った当事者・支援者の意見を製品機能の改良に反映させました。従来のコミュニケーション支援専用機のメーカーと販売者およびサポートを提供する人たちの意見と、訪問リハビリステーション・訪問看護ステーションなど難病在宅支援を行うリハビリスタッフ等からも実際に使用する場面を確認させてもらうなどの協力を得ました。</p>
<p>企業としての取組</p>	<p>私たちが提供する情報にアクセスしづらい方たちがいることを認識した上で行動することを社内原則として共有しています。</p> <p>情報提供の1つの方法としてウェブサイトがあるが、私たちの製品のユーザ層を見てもわかるように、そもそもウェブサイトにアクセスできない人たちや、アクセスができて情報を得づらい人たちがいるという現実をチームで共有認識とし、その上で何ができるかを工夫しています。</p> <p>企業のリソースには限りがあるので、全方位対応を無理に求めず、必要に応じた個別対応でも良いので必要としている人たちに手を差しのべることを会社として方針にしています。</p> <p>製品開発においては、iPadのプラットフォーム活用をしている製品なので、標準で提供されているアクセシビリティ機能に準拠した時にも使いやすいインタフェースを意識する取り組みをしています。</p> <p>1つの製品ですべてが解決できるほど、情報提供のあり方はシンプルではありませんが、私たちの製品がコミュニケーション手段の選択肢の1つとして存在すること、それによって情報提供のあり方においても、既存の選択肢を選べる可能性が増えたり新たな選択肢を増やせることにつながることを期待し、製品開発に取り組んでいます。</p>

③ (有)オフィス結アジア 指伝話メモリ(審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 障害者にとってはコミュニケーションができるのは喜びであり、障害者に円滑なコミュニケーション手段を提供する支援アプリケーションとして評価できる。
- 持ち運びが容易なタブレットに搭載可能な機能を持たせたことを高く評価したい。
- ICTの利活用を通じて、病気、事故等で被った障害や日常生活に不便を感じている高齢者の生活、特にコミュニケーション改善を目指している点は優れている。
- 不便解消、よりよい生活、やる気を誘発し、ステップアップ等寄り添っている印象がある。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 障害者や高齢者の様々な感覚器官や身体状況、認知力の程度に合わせて、容易に使用可能である。さらに対象者のレベルや進行状況に合わせてカスタマイズ可能であり、操作が簡単である。
- iPadに標準装備されているアクセシビリティ機能を用いて障害の種類や程度に応じて操作対応を可能としている。
- 指による入力操作の使いやすさ、大ボタンによる操作、VoiceOverやスイッチIFの利用の考慮、「カードを1枚選ぶ」というシンプルな操作でのコミュニケーションが可能である。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

—

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

—

③ (有)オフィス結アジア 指伝話メモリ(審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 企画設計段階から製品リリース後まで、当事者やその家族、支援者、リハビリテーション専門家、作業療法士、言語聴覚士等、多様な立場の人々の意見を取り入れて開発を進めている点は評価できる。これには、難病相談センターや福祉プラザでの意見収集も含まれている。
- 現場を知っている人が製品の企画製作段階から携わっているので安心して使用することができる。
- 多様な障害を持つ人々を意識して開発を進めてきた点は評価できる。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 企業のリソースには限りがあるという認識のもと、全方位対応を無理に求めず、個々人の必要とするものを手掛ける方針。万人向けではなく必要に応じて個別対応も可能な機器を開発するという広い視野を持って取り組んできたこと。
- 社内原則として「情報にアクセスしづらい方がいる」ことを前提として製品開発を心がけている点。
- 障害当事者のコミュニケーションを保障するという社会的使命を満たすべく活動する支援技術の提供企業であるという姿勢。

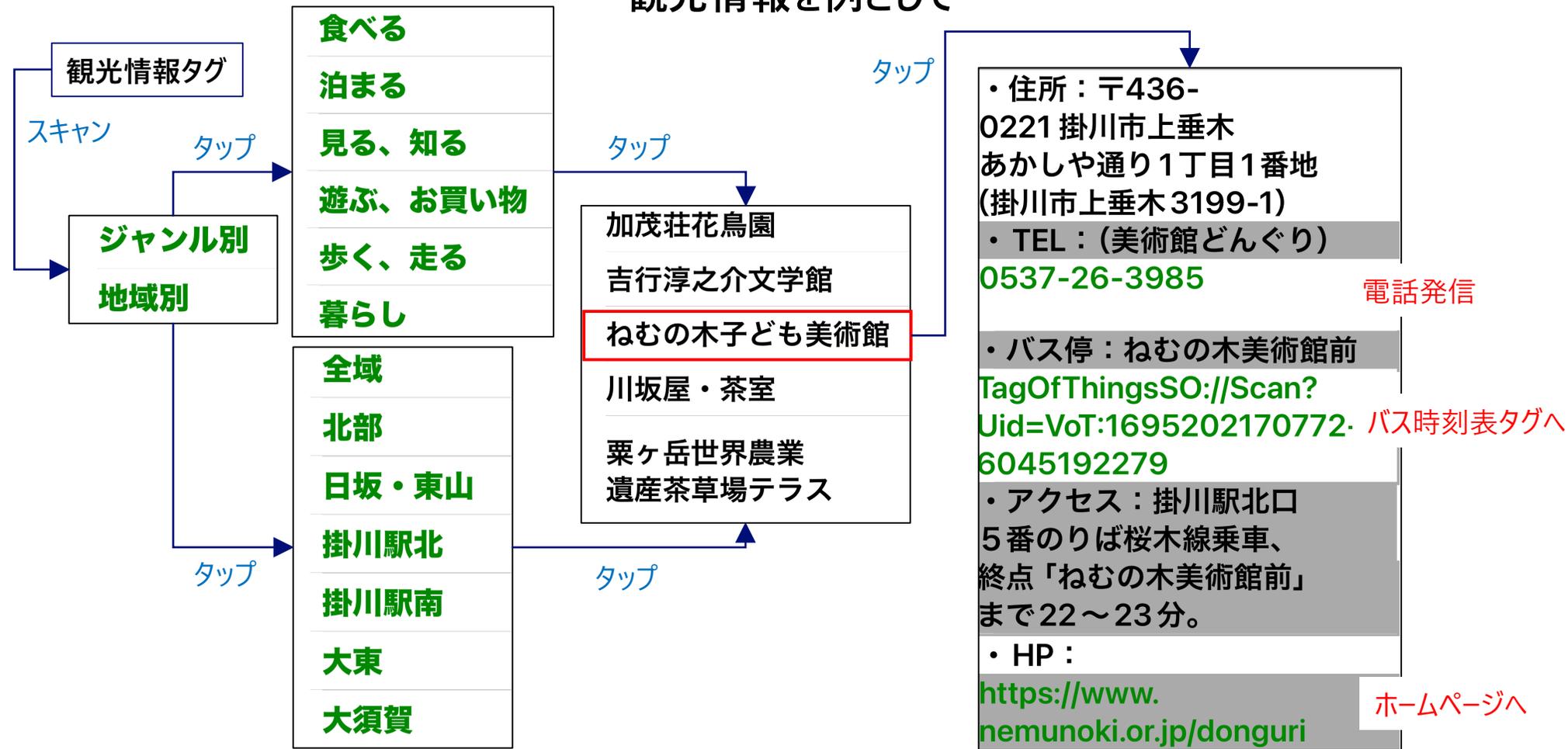
④ (株)コネクトドット ものタグアプリ

④ (株)コネクトドット ものタグアプリ (概要)

企業名	株式会社コネクトドット
機器・サービス名	ものタグアプリ(iPhone用、Android用)
問合せ先	アプリ担当、電話: 075-746-3550、Email: tot/atmark/connectdot.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	NFCタグに情報を登録し、物に貼ったそのタグをスマートフォンでスキャンし音声再生することによって物を識別するアプリです。大量の情報をタグの階層構造で表現し、好きな階層から読み進めることができるため、情報発信ツールとしても利用できます。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● NFCタグスキャン機能と読上げ機能 <ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば、服の裏地に張り付けた洗濯可能タグを服の表側から読み取ることが可能。 ● タグ登録機能 <ul style="list-style-type: none"> ・ タグを階層的に構成できる(例:書籍の目次、章、節、索引のように)。 ・ 上位タグを複数定義できる(例:CDケース名と女性歌手の両方を上位に持つCD)。 ● 階層構造と読み上げ順 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上位タグをタップすると下位タグの一覧が表示される。 ・ この繰返して順次タグを辿り、メニュー選択のようにタグを読み進めることができる。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 読上げ機能 <ul style="list-style-type: none"> ・ VoiceOverやTalkBackを利用して読上げる機能だけでなく、弱視ユーザがユーザ補助機能を使っていない時でも、シングルタップで読み上げる。 ・ 漢字を正しく読み上げない時、画面表示と読上文を別々に指定できるので、聴覚障害者向けの正しい表示と視覚障害者向けの正しい読みを提供できる。 ● アクションタグ <ul style="list-style-type: none"> ・ メールアドレス、URL、電話番号、ものタグIDの行をダブルタップすると、メール送信アプリ、ブラウザ、電話アプリを起動したり、他のタグにジャンプしたりできる。

④ (株)コネクトドット ものタグアプリ (概要)

観光情報を例として



ものタグに観光情報を登録し、観光情報タグをスキャンしてから、「ジャンル別」「地域別」のメニューをタップし2つの経路で検索して、「ねむの木子ども美術館」にたどり着く様子を示しています。

辿り着いた施設の詳細情報には、電話番号、バス時刻表タグへのリンク、URLが含まれ、各行をタップすると、電話をかけたり、バス時刻表タグへジャンプしたり、ホームページを表示したりすることができます。

④ (株)コネクトドット ものタグアプリ (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

ICタグを使った障害者支援機器の開発を目指して、京都の就労支援事業所にヒアリングに伺ったところ、隣接する盲養護老人ホームを紹介され、高齢の視覚障害当事者に話を伺うことになった。「服装が分からないので外出意欲がわからない」という話を聞き、視覚障害者が衣服管理をするためのスマートフォンアプリを試作した。iPhoneにNFC機能が搭載されたタイミングでもあり、洗濯しても剥がれない布用両面テープで洗濯ができるNFCタグを衣服に貼り付けて実験を繰り返し、衣服を識別できるものタグアプリとなった。

その後、当事者、支援団体職員、眼科医(ロービジョンケア)等に意見を伺い、視覚障害者が物の識別・管理ができるアプリとして高評価を得た。

特に、目薬を識別するためのタグは好評であり、災害時ネットにつながっていなくても読めるようスマートフォンに情報をキャッシュするようアプリを再設計した。

一方、「視覚障害者は情報弱者」「情報ソースが少なすぎる」という意見もあり、1回のタグスキャンから大量の情報を得られるよう、タグの階層化とその連続的アクセス手順の再設計を行い、現在の、視覚障害者への情報発信ツールとしてのものタグアプリとなった。

企業としての取組

ものタグアプリを情報発信ツールとしてバージョンアップするにあたって、タグが公的な空間に散らばることから、セキュリティ検討チームを構成してシステム設計を進めることとした。

- ・個人情報管理:コンテンツと個人情報を管理するサーバを分離し、通信は暗号化する。
- ・ユーザ認証:ID/パスワード方式では視覚障害者が使いにくいので、端末に暗号化キーをセットする端末認証方式とする。認証されたユーザ(端末)のコードをタグ情報に紐付け、タグの所有者を明らかにする。
- ・コンテンツへのアクセス管理:各タグに付けられたアクセスレベルに応じて、そのタグにアクセスできるユーザの範囲を決める。大量の情報を階層化してタグに登録する作業は、外部業者に委託することになるので、特殊なユーザ種別を作り、その外部業者に権限移譲できるようにする。

なお、「どの情報が必要かはユーザが判断し、情報提供者が線引きすべきではない」を大方針としてコンテンツ制作をすることを社としての取り組みとしている。

障害者が必要とする情報は千差万別であり健常者には計り知れない、結果、障害者には知りえない情報が発生してしまい、情報アクセシビリティの本質を見失うからである。

④ (株)コネクトドット ものタグアプリ (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 視覚障害者や盲ろう者にとって、ものや色の識別は大きな困難の一つであるため、ものの管理をするうえで有用である。
- ・ NFCタグを活用して視覚障害者でも容易に衣装選択ができる点が評価できる。
- ・ NFCタグを用いた同種の装置はあるが、専用読み取り端末が不要であり、スマートフォンで利用できることから低コストである。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 本製品は、VoiceOverをベースに開発され、音声利用することで、点字が難しい方への情報伝達の方法としても評価できる。また、点字ディスプレイを接続することによって、点字ユーザーの盲ろう者も利用可能。スマートフォンのテキストベースで表示されるため、聴覚を利用できない弱視の盲ろう者でも文字で確認できる。
- ・ コントラスト調整や色反転モード等弱視者向けにも配慮されている。
- ・ データ入力も音声入力を必要としない操作モードがあるため、盲ろう者でも使用可能である。
- ・ スマートフォンに実装されている機能を個人がカスタマイズして使用していることを踏まえた上で、アプリケーションに必要な配慮を盛り込んでいる。
- ・ サポート体制も複数の方法により行っている。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 施設における情報提供については、今後、施設側にどのように協力してもらうかが大切になると考える。
- ・ ものの管理だけではなく、幅広く情報提供の手段として発展させることも期待する。
- ・ 必要な情報や使い方についても利用者の意見を聞く機会を作ってもらうことを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 弱視者でも使えるように文字サイズの調整ができることを期待する。

④ (株)コネクトドット ものタグアプリ (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 開発に当たり、当事者や支援団体職員、眼科医(ロービジョンケア)等の関係者から広く意見を聞き、それを基に改善を重ねたこと。
- アプリケーション開発においては、高齢視覚障害者を中心によくリサーチしている。また、その声を基にタグの性能を向上させ便利に使えるものとなるように取り組んだこと。
- 高齢の視覚障害者から「服装が分からないので外出意欲がわからない」という話を聞き、それを製品開発の起点にしたこと。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 「ID/パスワード方式では視覚障害者が使いにくい」という点に着目し、工夫がなされていること。
- タグのセキュリティ対策、個人のユーザー認証、個人情報保護の対応等、視覚障害者が安心して利用できる機能開発を行っていること。
- 視覚障害者の利用シーンをベースに情報拡大していること。
- 障害当事者、支援団体職員、ロービジョンケア医等の意見を聞き、企業側の先入観だけで判断していないこと。

⑤ (同)thousandmiles(サウザンスマイルズ)
ニューズメディアthousandmiles



⑤ (同)thousandsmiles(サウザンスマイルズ) ニュースメディアthousandsmiles (概要)

企業名	合同会社thousandsmiles(サウザンスマイルズ)
機器・サービス名	ニュースメディアthousandsmiles(サウザンスマイルズ)
問合せ先	代表・須永恵理 (メールアドレス: tsspr/atmark/tanita.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。電話番号:070-4307-7150)
機器・サービスの概要	本サイトは、晴眼者(せいがんしゃ)、視覚障害当事者の両方を対象に、視覚の障害の有無にかかわらず、同じ情報を同じようにとれることを目指し、スクリーンリーダーでも読みやすい設計・記事内容のニュースサイトとなります。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none">● スクリーンリーダー対応:スクリーンリーダーのなかでも特にユーザーの多いPC Talker、NVDA、iPhoneのVoiceOverに対応するよう設計しています。● 見た目はシンプル、音声はリッチに:視覚的にみえる部分はできるだけシンプルに、スクリーンリーダーを使用した際のアシストなど、視覚的にはわからない情報は音声で適宜補足することで操作性を高めるようにしました。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none">● 当事者による検証:ウェブサイト作成前、作成後のローンチ前の段階で、複数の視覚障害当事者によるヒアリングやスクリーンリーダーを使用して使いやすさの検証をおこないました。● 画像の代替テキスト:商品紹介の記事作成の場合、画像の代替テキストには素材や形状などを盛り込み、スクリーンリーダーユーザーにも伝わりやすくなるようにしています。● 記事内容:トレンドやグルメ、ヘルスケアなどのカテゴリーごとに、ニュース記事や新商品の紹介、気になる商品のレビュー、インタビューなどの情報を幅広く発信しています。 <p>取り上げる内容については視覚障害当事者にも定期的にヒアリングをおこなっています。レビュー記事などにおいては、紹介する商品が視覚障害者にも使いやすいかどうか(開けやすいパッケージなど)、視覚障害当事者からのニーズがあるものか等の観点も踏まえて掲載するかどうかを決めているものも多いです。その一方で「当事者に寄せていない記事が読みたい」という声もあるため、バランスをみながら掲載内容を選定しています。</p>

⑤ (同)thousandsmiles(サウザンスマイルズ) ニュースメディアthousandsmiles (概要)



Pick UP記事

PICKUP



お知らせ

2023年7月31日

スクリーンリーダーを使うと、このサイトはどうやって読み上げられる？

「スクリーンリーダー」をご存知ですか？ ドラマやメディアなどで最近少しずつ耳にする機会が増えてきています。もしかしたら、視覚に障害のある人がものすごい早さでスマホなどを読



トレンド

2023年7月26日

iPhoneのVoiceOverの使いかた知ってる？

「スクリーンリーダー」って聞いたことありますか？ TBS系で放送されていた日曜劇場「ラストマン」を見ていた人であれば、福山雅治さん演じる全盲のFBI捜査官がスマート[...]

⑤ (同)thousandsmiles(サウザンスマイルズ) ニュースメディアthousandsmiles (概要)

<p>当事者ニーズを踏まえた開発</p>	<p>2022年9月にグランドオープンした当サイトは、スクリーンリーダーのなかでも特にユーザーの多いPC Talker、NVDA、iPhoneのVoiceOverに対応するよう設計しています。設計においては、事前に視覚に障害をもつ当事者へのヒアリングなどをもとに行い、公開前にも複数の視覚障害当事者にスクリーンリーダーで使いごこちをレビューしてもらい公開しています。視覚的にみえる部分はできるだけシンプルに、スクリーンリーダーを使用した際のアシストなど、視覚的にはわからない情報は音声で適宜補足することで操作性を高めるようにしました。ヒアリングであがった画面遷移のしやすさ、ひとつ前やトップページに戻りやすくするためのボタン設置などもおこなっています。記事においては、画像への代替テキストの設定や、スクリーンリーダーで画面を読み上げた際に起こる「読み間違い」も、できるだけ少なくなるよう試行錯誤しながら作成しています。視覚の障害の有無を問わず、同じ情報をできる限り同じように届けられるよう心がけながら更新をおこなっています。</p>
<p>企業としての取組</p>	<p>サイト設計前のヒアリングで、視覚障害当事者向けの商品を販売する企業にも話を伺い、視覚障害者向けの商品があっても当事者に情報が届きにくいという声がありました。そのため、ニュースサイトの取材を通して、視覚障害当事者向けの商品を扱う企業を積極的に取り上げるようにしています。</p> <p>また、実験段階ではありますが、最近では当事者に記事作成の協力を依頼し、記事内容だけでなく制作においてもインクルーシブな運用ができるよう、ブラッシュアップをはかっています。</p>

⑤ (同)thousandsmiles(サウザンスマイルズ) ニュースメディアthousandsmiles (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 視覚及び聴覚両方に障害のある「盲ろう者」が、情報入手ができること。
- 視覚障害者がスクリーンリーダーによりトレンド、グルメ及びヘルスケア等のオリジナル記事を把握できること。
- 聴覚障害者が日常生活で把握したい身近な音や音声を認識出来ること。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 記事本文に簡単にアクセスでき、画面の構成が分かりやすいこと。画面遷移のわかりやすさに配慮していること。
- テキストサイズの変更と背景色の変更ができ、弱視の盲ろう者でも使用しやすい様式になっていること。
- PC-Talker、VoiceOverだけでなく、NVDAにも着目してスクリーンリーダー対応を行っていること。このことは、点字ディスプレイユーザーの利用にもつながる。
- 一般のニュースサイトと異なり、写真の代替テキストが付与されていること。
- 写真情報の表現について、工夫して提供していること。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ウェブサイトとしてのコンテンツの充実に期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- JIS X 8341の中で対応していない項目に順次対応していくことを期待する。
- 動画系、コントラスト、エラー対応及びリンク一覧等がJIS規格非対応となっており、これらの今後の対応を期待する。
- 記事がタイル型に並んでいる部分があり、弱視の場合見落としてしまうため、1行又は1列で表示されるようになることを期待する。

⑤ (同)thousandmiles(サウザンスマイルズ) ニュースメディアthousandmiles (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 情報提供することが難しい写真等について、代替テキストの付け方を工夫していること。
- 全盲者を含めた視覚障害者によるモニター検証も行っていることは大いに評価できる。
- 複数の視覚障害者にスクリーンリーダーで使い心地をレビューしてもらい、連携して開発を進めようとしている点が評価できる。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 視覚障害者、晴眼者の両方への情報提供サイトとして立ち上げており、今後記事作成の協力を当事者に依頼する等、当事者視点での情報提供に積極的であること。

⑥ サクサ(株) UTM

⑥ サクサ(株) UTM (概要)

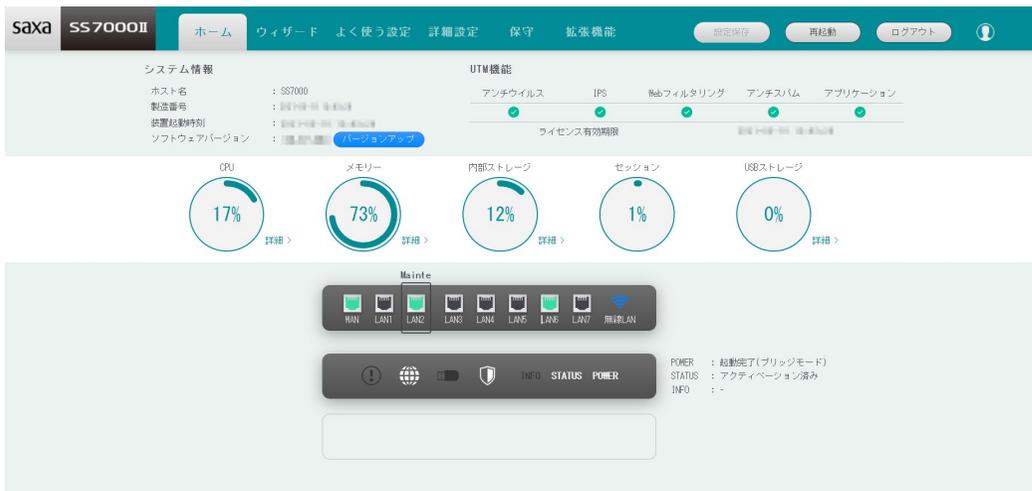
企業名	サクサ株式会社
機器・サービス名	UTM (統合脅威管理アプライアンス)
問合せ先	コーポレートコミュニケーション室 小高 正樹 (mail:odaka.m/atmark/saxa.co.jp TEL:03-5791-5586) 事業企画部 成長ビジネスG 辻窪 好英 (mail:tsujikubo.y/atmark/saxa.co.jp TEL:03-5791-5523) (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	サクサUTMは、ファイアウォール、アンチウイルス、アンチスパム、IPS、情報漏洩対策、VPNなどの多彩なセキュリティ機能を統合したシステムです。 更にサクサは国産ならではのサポート体制も充実しています。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多種多様なセキュリティリスクへの防御 セキュリティ製品やシステムを個別で導入するのは、管理の手間やコストがかかります。本製品により、インターネットに関連するさまざまな脅威を一括で対策することができます。 ● 迅速丁寧なサポート体制 PCウイルス駆除サービス:PCのウイルス感染時に、駆除をサポートします。 サイバー保険サービス:上記サービスでウイルス駆除が行えなかった場合にも補償があります。 防御状況の見える化:セキュリティ状況を視覚的に把握することができます。 代替機発送サービス:機器故障時に、新品同様の代替機をお送りします。 コールセンター:電話対応やリモート保守で迅速丁寧にご対応いたします。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 様々な工事者が設置作業を行えるように(マニュアルの充実や設定の簡易化)配慮しています。 ● 実際にご利用のユーザー様のご意見を収集し、機能や設定画面を設計・製造しています。

⑥ サクサ(株) UTM (概要)

■本製品により、インターネットに関連するさまざまな脅威を一括で対策することができます。



■設定画面イメージです。



⑥ サクサ(株) UTM (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

本製品は工事設置者が設置・設定を行い、ユーザは基本的に何もしなくてもNWを守れるという製品です。これまでのUTM製品では基本的に細かく設定を行い環境に合わせた設定を行う必要がありましたが、工事者の声から、サクサではウィザード登録を取り入れ、設定の簡易化を行うことで工事者の負担を十分に減らしました。

また、登録画面については、なるべく配色を使用せずシンプルな色使いにする事で、視覚的に長時間利用しても登録者に負担の少ない画面設計を企画段階で行いました。

また、工事設置業界は高齢者や障がい者も多く、上記の「工事者の声」には高齢者や障がい者も含まれます。

企業としての取組

本製品に限らず視認性・可読性・判読性等の確認等を行い、出来るだけユーザに配慮した画面、設計(アクセシビリティ)を行うように推進しています。

また今回の「情報アクセシビリティ好事例2023」に提出するにあたり、更に企画、開発内でアクセシビリティを意識するよう、打合せ・勉強会を実施しました。

⑥ サクサ(株) UTM(審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 保守画面でも配色を考慮する等、工事者に対しても色覚に関するアクセシビリティを配慮している点。結果として、障害者の就労促進につながる効果がある。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ ドキュメントとサポートサービスについて、Webのみでの対応が増えている中、電話での対応も行っており、視覚障害者にとって複数のサポート体制があることは評価できる。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 情報処理技術者試験のうち、セキュリティやネットワーク管理に関する専門資格については、視覚障害者も取得できるようになっており、今後軽度の弱視者(ロービジョン)であれば、工事者になることも考えられるため、これらも工事者として想定してもらいたい。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 色使用に関しては、更なる理解を期待する。
- ・ ウィザードは多くの人に使いやすいが、ウィザードだけでは、配慮があると言えないため、改善を期待する。
- ・ 工事者に対するアクセシビリティのみならず、UTM本体のアクセシビリティが向上することを期待する。特に視覚障害者が、音声認識ソフト等を利用してセキュリティ設定を操作できるようになるとよい。UTM本体のアクセシビリティが向上すれば、視覚障害者の就労促進にもつながる。

⑥ サクサ(株) UTM(審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 「工事者の声」を聴いた上での開発を行っている。また、デザイン部門で見やすさ確認を出来る範囲内で推進している。
- 障害者等の当事者によるユーザビリティ試験を行えば、更に当事者のニーズが反映できる可能性がある。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 視認性の観点で配色を考慮した製品開発体制がある点や、アクセシビリティに関する勉強会を開催している点が評価できる。
- また、設置工事の作業員として障害者が就労できる可能性を切り拓いた点は評価できる。

⑦ (株)ジャパンディスプレイ
Rælclear(レルクリア)

⑦ (株)ジャパンディスプレイ Raelclear(レルクリア) (概要)

企業名	株式会社ジャパンディスプレイ
機器・サービス名	透明インターフェイス Raelclear(レルクリア)
問合せ先	株式会社ジャパンディスプレイ 広報部 (電話:03-6732-8364、メール:news.jdi/atmark/j-display.com)(注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	聴覚障害者や、日本語が分からない方が、窓口等で音声認識アプリを利用してコミュニケーションを行う際に、字幕による文字情報だけでなく、相手の表情や仕草などの視覚情報も交えたコミュニケーションを可能とする機器です。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● レルクリアが持つ唯一無二の2つの特徴により、窓口等の対面コミュニケーションの場で、以下のような効果を得る事ができます。 ● 1つ目：ガラスのように透明な画面 ガラスのように透明な画面に音声字幕を表示する事で、文字情報に加え、画面越しに相手と視線を交え、お互いを理解しながらコミュニケーションをとる事ができます。 ● 2つ目：画面の両側から字幕を読むことができる 文字おこしアプリの翻訳機能を利用し、片側に日本語字幕を、もう片側に翻訳字幕を表示する事で、レルクリア上の字幕を介して、それぞれの母国語で異言語間のコミュニケーションをとる事ができます。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● レルクリアでは、スマートフォンやPCで動作する数多くの文字おこしアプリでご利用頂く事ができます。これにより、文字の大きさや色、操作性など、個々の利用者にとって使いやすいアプリをそのままレルクリアでご利用頂く事ができます。

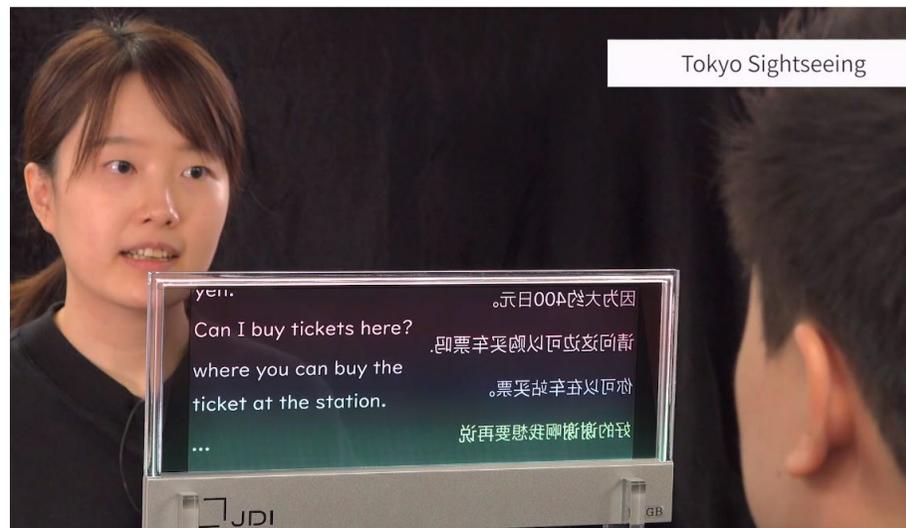
⑦ (株)ジャパンディスプレイ Raelclear(レルクリア) (概要)

市役所の窓口等での利用イメージ



レルクリア上に、リアルタイムで音声字幕が表示されます。
レルクリアはガラスのように透明なので、字幕情報を見ながら、画面越しに相手の表情や仕草も見る事ができます。
結果、相手の様子をより良く理解しながらコミュニケーションをとる事ができます。

異言語間コミュニケーションでの利用イメージ



翻訳機能も持った音声認識アプリを利用し、リアルタイムで音声字幕と、翻訳結果をレルクリア上に表示します。
レルクリアは、両側から表示を視認する事ができる為、対面する二人それぞれに、母国語の字幕を提供する事ができます。
結果、レルクリアを介して、異言語間のコミュニケーションをとる事ができます。

⑦ (株)ジャパンディスプレイ Raelclear(レルクリア) (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

レルクリアは、高い透明度と両面表示が可能という唯一無二の特徴を持っています。この特徴は、特に聴覚障害者との対面コミュニケーションの際に有益であると考え、筑波大学デジタルネイチャー研究室との協業を経て、話し声を文字に変換しリアルタイム字幕としてレルクリアに表示するシステムの実現に至りました。

字幕がスマートフォンやPC画面に表示される場合、聞き手の視線は画面に固定され相手を見られず、また話し手は字幕を確認できないといった不便が生じますが、レルクリアでは、聞き手は字幕と画面越しの相手を同一視野で見ることができ、対面する話し手からもレルクリアに表示された字幕を確認できるようになります。研究室にはろうの方も在籍しており、当事者の声が反映されたシステムになっています。

レルクリアのこの活用法には、音声認識アプリを提供している多くの企業が賛同し、現在では10近いアプリがレルクリアの利用に適した表示機能を持ち、利用者の利便性の向上に繋がっています。

当社では、聴覚障害者の方にレルクリアを実際に体験して頂き、ご意見を製品開発に活かしています。ご要望が多い大画面化かつ画質改善した製品を2024年にリリース予定です。

企業としての取組

当社は、企業の存在意義は社会貢献にあるとの信念のもと、社会課題に積極的に取り組み、社会価値の創造を目指しています。その一つがレルクリアの活用による「コミュニケーションの壁」を取り払う取組みです。聞こえない/聞こえづらい、日本語がわからない等の理由で「コミュニケーションの壁」に直面し、社会生活の制限を受けている人が居る状況は改善を目指すべきです。

2023年末時点で以下の場所での活用がされており、今後もより多くの場所での利用が進むよう取り組んでまいります。

聴覚障害の視点(日本語字幕表示)

- 自治体:約40の自治体の障害福祉窓口
- 聴覚特別支援学校/聾学校:15程度の学校の教室や学校受付
- 聴覚障害者団体/支援団体:10程度の団体での日頃の活動
- 民間企業:聴覚障害者が在籍する15程度の企業

異言語の視点(翻訳字幕表示)

- ウクライナ避難民受け入れ自治体:10の市町村等の窓口
- 行政機関:5程度の機関の窓口

また、企業活動の重要な情報発信の場であるホームページに関して、2024年に情報アクセシビリティに対応したページにリニューアル予定です。

⑦ (株)ジャパンディスプレイ Rælclear(レルクリア) (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 発話をリアルタイムに文字化することにより、内容を理解できるだけでなく、透明液晶ディスプレイに表示されるため、お互いの顔を見ながら対面でコミュニケーションすることが可能になる。
- コミュニケーションツールとして日本語がわからない人も含め、多様な人々に利用できる。鉄道駅で実際に使用されており、実績も豊富である。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- —

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 音声の強弱等の表現ができれば、発話者の感情やその場の雰囲気もわかり、より内容が伝わりやすいのではないか。
- 発話された内容をそのままテキスト化した場合、手話を使用しているろう者にとっては難しく理解できない場合があるため、わかりやすい文章に変換する機能が実現されることを期待する。
- 将来的に、音声を手話に変換してディスプレイに表示できる機能が実現されることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- —

⑦ (株)ジャパンディスプレイ Raelclear(レルクリア) (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 開発時に研究室に在籍していた聴覚障害者の意見を反映させるとともに、聴覚障害者に実際に体験してもらい、その意見を開発に活かしている。

4. 企業としての取組について、優れている点

- ろう学校、聴覚障害者団体・施設及び聴覚障害者が在籍する企業等における設置、利用の普及に取り組んでいる。
- 企業の存在意義は社会貢献にあるとの信念のもとに、聞こえない/聞こえづらい、日本語がわからない等の理由から生じる「コミュニケーションの壁」の打破に取り組んでいる。

⑧ 情報技術開発(株) Sound Display

⑧ 情報技術開発(株) Sound Display (概要)

企業名	情報技術開発株式会社
機器・サービス名	Sound Display
問合せ先	support.sound-display/atmark/g.tdi.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	本スマートフォンアプリは、周囲の音をAIで認識し、アプリ利用者に通知するものです。主としてろう者や難聴者といった聴覚障がい者の利用を想定しています。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 音認識機能:身の回りの音を認識してユーザーに通知します ● 音登録機能:通知してほしい音を自由に録音・登録できます ● プリセット音:アプリインストール時に認識できる音(緊急車両等)を複数用意しています ● 多様な通知方法:プッシュ通知画面、バイブレーション、LED等、複数用意しています <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● テーマカラーの変更:ユーザはアプリの背景を自分の状況に合わせて変更ができます ● ユーザガイドの準備:利用方法を示した動画を字幕付きで公開しております ● 操作の簡易性:ほぼ、タップのみのシンプルな操作でご利用ができます





⑧ 情報技術開発(株) Sound Display (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

実用化検討段階においては、複数の当事者団体等へのヒアリングを行いました。また、開発メンバーの親族(聴覚障がい者)の協力をいただき、実際の聴覚障がい者へもヒアリングを実施しました。

開発段階においても、障がい者の就労を支援する団体や聴覚障がい者の情報伝達を支援する団体へのヒアリングを実施しました。また、聴覚障がい者を支援する団体には、実際の聴覚障がい者の方への試用を含め、継続的なご協力をいただきました。

企業としての取組

情報アクセシビリティに関わる全社ルール策定、情報アクセシビリティチームの組成等ははまだ始まっておりません。

⑧ 情報技術開発(株) Sound Display (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 身の回りの音を認識し、その情報をスマートフォン等の画面に文字で表示する機能は、ろう者や聴覚障害者が感じる日常生活や就労時の不自由さ・身の危険を解消し、社会参加しやすい環境づくりを支援できる。
- 緊急通報を含め、どのように情報を聴覚障害者に提供するかは重要な課題であり、それに応える支援アプリケーションである。
- 緊急通報が聞こえないという当事者ニーズに応えた点に敬意を表する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 音の認識時にバイブレーションで通知し、ほぼタップで操作できる。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 救急車・消防車・パトカー等が接近している際に、これらを区別できることを期待する。
- 多言語対応の開発も進めれば利用者が増える可能性があるので期待する。
- 同様の機能はスマートフォンの基本機能に搭載されているが、使い勝手は本製品の方が良いと思う。今後、スマートフォンの基本機能との役割分担は課題かもしれない。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 音登録は、音が聞こえない聴覚障害者には困難ではないかと思われるので、聴覚障害者でも簡単に登録できるような方法の開発を期待する。
- 誤認識した場合に修正出来ることを期待する。

⑧ 情報技術開発(株) Sound Display (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 開発や実用化の過程で、障害者団体等へのヒアリングを行い、試用協力を得ている。これにより、試作品の使用経験を通じて改善点を見出し、製品化につなげている。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 障害者団体との連携は同社の基本姿勢と読み取れる。

⑨ ソフトバンク(株) SureTalk

⑨ ソフトバンク(株) SureTalk (概要)



手話ユーザーと音声ユーザーが自分の母語を使ってコミュニケーションすることができます。



自分と相手の映像が画面に表示され、会話の内容がチャットのように吹き出しで表示されます。

⑨ ソフトバンク(株) SureTalk (概要)

<p>当事者ニーズを踏まえた開発</p>	<p>SureTalkの開発を開始する前に当事者団体である全日本ろうあ連盟を訪問し、製品のコンセプトや方向性、並びに当事者としての要望について意見をいただきました。また、当事者の教育機関、当事者と日常的に接する自治体などの支援機関、医療機関へも同様のヒアリングを行い、開発に当たり考慮すべき事項、必要な機能、ユーザーインターフェースなど様々な観点から意見を収集しました。開発段階から現在に至るまで、SureTalkを当事者団体、支援機関の協力を得て実証実験として提供し、アンケート等を収集することで機能改善に活用しています。</p>
<p>企業としての取組</p>	<p>SureTalkの開発では社内の当事者に開発業務に参画してもらい、健聴者と聴覚障がい者の開発チームを組成しました。その他手話の学習データ収集においても、本社人事部より全社的に社内聴覚障がい者に事業への参画を求め、2019年からの累計で100人以上の社内聴覚障がい者社員がプロジェクトに携わってきました。</p> <p>社内情報アクセシビリティに対する取り組みとしては、人事部ノーマライゼーションチームが主導となり、アクセシビリティ確保のための音声文字起こしツールを会社標準ツールとして全社展開し、聴覚障がい者のアクセシビリティ向上に努めています。</p>

⑨ ソフトバンク(株) SureTalk (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 一般的な製品では音声言語を文字へ変換することが主流であるが、本製品は手話という言語を文章に変換できるという点が良い。
- ろう者にとっては、日本語は外国語であるため、すべての人が音声言語から文字に変換された日本語を理解できるわけではない。ろう者は自身の言語体系である手話を使って、コミュニケーションしたい人が多いため、本ツールについて嬉しく感じる。
- インターネットを介して手話をテキストに変換することで、聴力に関係なく円滑なコミュニケーションを実現できること。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 会話は個人情報が含まれる可能性が高く、手話アプリケーションとして十分なプライバシーの配慮がされている。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 「手話の認識率の更なる向上」、「修正ができる機能の実装」、「音声、テキストを手話に変換して表示できる機能の実装」を期待する。
- 現在は文字に変換するのみであるが、将来的にアバターや手話で表現できるようになることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 上肢障がいでは使えない部分がある。加齢とともに手の動作も不自由になる人がいる点に配慮した、限られた器用さや力への一層の配慮を期待する。

⑨ ソフトバンク(株) SureTalk (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 企画/開発/提供後のそれぞれの段階において、聴覚障害者団体から要望、意見を聞くとともに、聴覚障害関係教育機関等にヒアリングを行い、意見を把握して取り入れている。
- 社内の聴覚障害者100名の協力を得たことで、個々人のバラツキが吸収できるようにサービスが開発されている。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 人事部ノーマライゼーションチームが主導して、アクセシビリティ確保のための音声文字起こしツールを会社標準ツールとして全社展開し、聴覚障害者のアクセシビリティ向上に取り組んでいる。
- 開発を通じて、開発者が障害当事者の視点を持てるよう育成している。
- 企業規模を活かして、多くの当事者を雇用している。

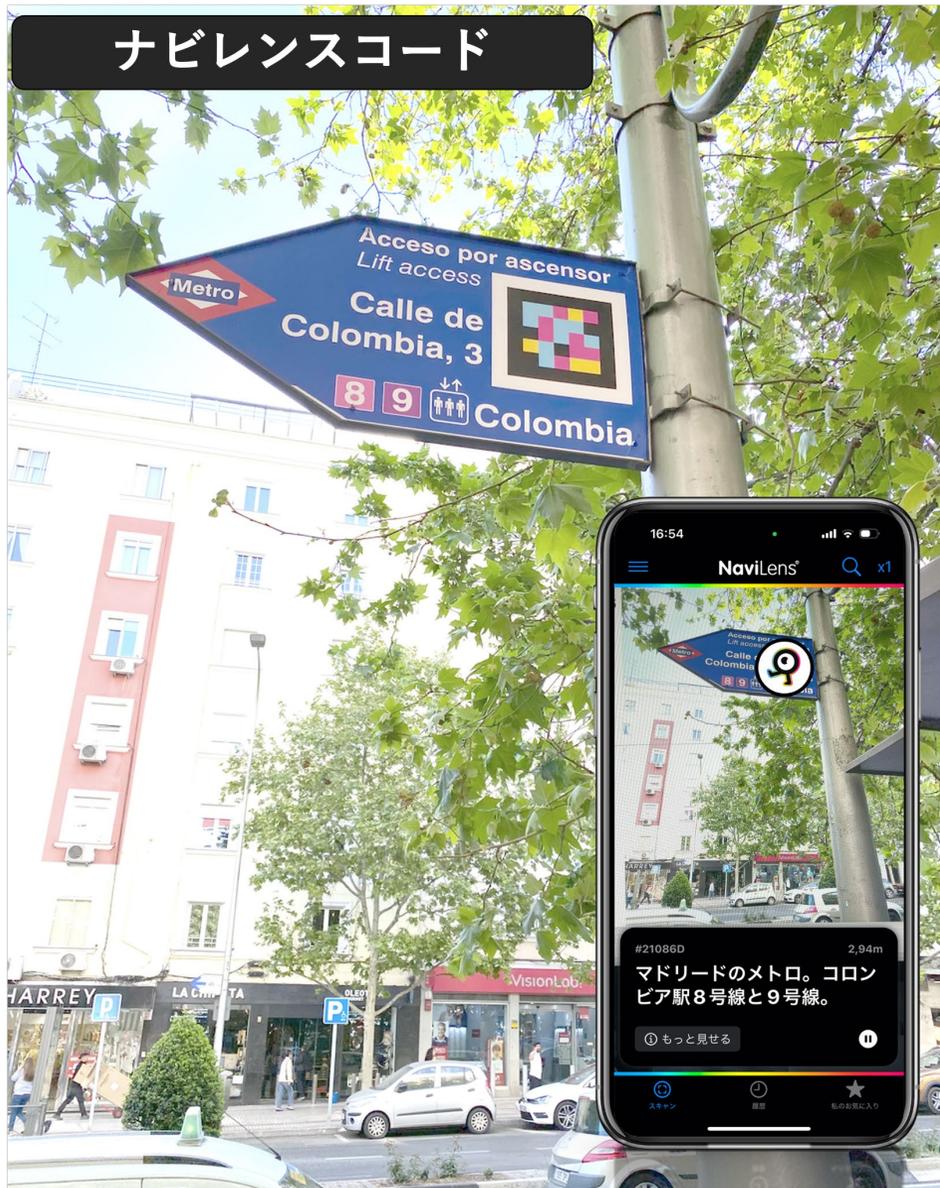
⑩ ナビレンス NaviLens

⑩ ナビレンス NaviLens (概要)

企業名	Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens
機器・サービス名	ナビレンス
問合せ先	info/atmark/navilens.com(注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記していません。
機器・サービスの概要	視覚障害者ユーザーの移動支援や公共スペースでのアクセシビリティ向上を主な目的としたスマートフォン用無料アプリです。フォーカス不要、長距離から読み取れるコードをアプリで読み取ることで、位置情報や周囲の環境情報などを音声とサウンドで取得します。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アプリを開き、周囲をスマートフォンのカメラでスキャンするような動作を行うことでコードを検出します。コードを真正面に捉えたりフォーカスする必要はありません。 ● コードを検出すると、コードまでの距離と挿入された情報を音声でお知らせします。続いてその位置を音声またはサウンドでお知らせします。 ● 屋内屋外に関わらず、コード検出、情報取得およびコードまでの案内が可能です。 ● 拡張現実技術を利用した360ビジョン機能で読み取ったコードをロックすることで、3Dサウンドを利用した直感的なガイドが可能になります。 ● アプリから無料のパーソナルコードセットが取得できます。様々な所有物や場所に個人利用のコードをつけて、すぐに日常的なアプリの利用が可能です。 ● ナビレンスアクセシブルQRコードを利用して、アプリでQRコードも簡単に開けるようになります。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ナビレンスアプリは視覚障害者に向けて全ての情報を音声ガイダンスで提供します。また、好みや必要に応じて、コードの位置案内を音声、サウンド、ハプティック(振動)などで設定できます。 ● 多言語に対応しているため、異なる言語圏のユーザーも情報を自身のスマートフォンの言語で得ることができます。

⑩ ナビレンス NaviLens (概要)

ナビレンスコード



ナビレンスアクセシブルQRコード



⑩ ナビレンス NaviLens (概要)

<p>当事者ニーズを踏まえた開発</p>	<p>弊社アプリは、独自開発の2次元コードをスマートフォンのカメラで読み取り、情報を発信するものです。アプリで読み取る2次元コード「ナビレンスコード」の開発は、アリカンテ大学のモバイルビジョン研究所との共同開発であり、視覚障害があってもコード位置が特定しにくくても、コードにフォーカスしたりフレームに収めたりなどを必要とせず、また、正面からのみでなく広範囲な角度で長距離から素早く読み取れるコードです。</p> <p>ナビレンスアプリの開発には、企画の段階から弊社に所属していた視覚障害当事者が関わっており、またスペイン国立視覚障害者団体(ONCE)より密接に意見を聞きつつ設計開発が行われ、テストなどが行われました。最初の実証実験は、2017年ONCEが主催する視覚障害者のためのテクノロジー分野の主要な国際見本市の1つ、TifloInnovaで行われ、当事者体験から有用性が確認されています。また、ONCEはもとより、イギリス王立盲人協会(RNIB)、アメリカライトハウスギルドなど、さまざまな国にわたる視覚障害者団体の建物でコード実装が行われており、アプリ利用から当事者の要望、意見などが直接的に届きやすい環境に努力しています。</p>
<p>企業としての取組</p>	<p>標識や看板を認識しづらい視覚障害者は、経験のない環境下での自立的歩行が制限されてしまいます。それに対するソリューションを提供すべく、「視覚障害者に力を」という理念のもとテクノロジーの開発が行なわれました。</p> <p>さらには、より包括的な世界作りのため、ナビレンスアプリから派生して、「ナビレンスGO」というアプリも開発。手話ビデオやピクトグラム、簡易テキスト、移動に制限があるユーザー向けのアクセスルートなど、ビジュアル情報とともに発信できるアプリです。両アプリは同一コードで機能し、ユーザーのデバイス言語に準じて世界36言語での情報発信を行っています。</p> <p>両アプリの改善、新機能開発、コードの運用に関しての業務が弊社の主体であり、全ての社員が情報アクセシビリティに関して常々関わっているため、特にアクセシビリティチームなどは編成していません。ユーザーや関係団体などとのオンラインでの意見交換では、毎回トピックに関わる各部門のスタッフが参加し、直接的に当事者または関係者と関わっています。</p> <p>アプリの取得は完全無料で、ユーザー自身が個人的に日常生活で利用できるパーソナルコードや特定の公共施設で利用できるコードキットを無料で提供しています。</p>

⑩ ナビレンス NaviLens (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 情報を効率的に得ることができ、様々な場所にアクセスしやすくなるソリューションである。
- 都市における生活を豊かにさせるという観点において、サポートを含めて有意義なソリューションである。
- アプリケーションで読み取るナビレンスコードは研究所との共同開発であり、広範囲な角度で長距離から素早く読み取れるために、利便性が高い。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 読み上げ機能に対応している。
- 弱視者(ロービジョン)にも認識できる配慮がなされている。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 2次元コード自体が、ある程度「この辺にある」といった情報がないと利用が難しいため、視覚障害者がナビレンスコードの位置を発見できるための周知といった環境整備が期待される。
- 外で使うものであるため、障害者が安全に使えるために、使い方の周知をすることが期待される。
- より普及し、利便性が高まっていくことが期待される。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- —

⑩ ナビレンス NaviLens (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 企画段階から視覚障害者が関わっており、また、スペイン国立視覚障害者団体(ONCE)より密接に意見を聞きつつ設計開発が行われ、テスト等が行われている。
- 実証実験は当事者体験から有用性を確認し、イギリス王立盲人協会(RNIB)、アメリカライトハウスギルド等、様々な国にわたる視覚障害者団体の建物でコード実装が行われ当事者の要望、意見等を収集し改善をしている。

4. 企業としての取組について、優れている点

- アクセシビリティを専門にした職員のみ、又は専門チームのみで取り組むのではなく、全社を挙げて標準的にアクセシビリティについて取り組める環境を構築している。
- 「視覚障害者に力を」という理念のもとテクノロジーの開発が行われている。
- また、世界36言語での情報発信が可能であり、完全無料で公開している。

⑪ バーベキューアーミー
Talk to Deaf Grandmother

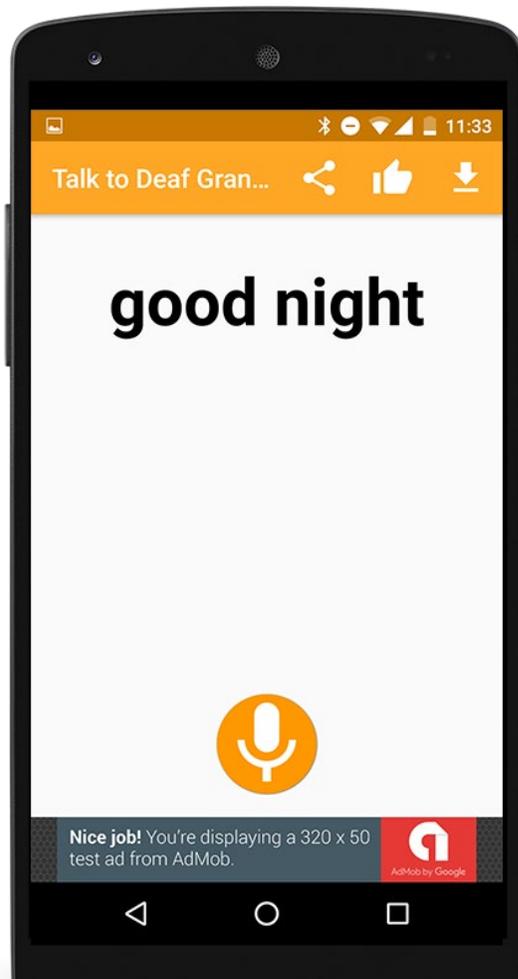
⑪ バーベキューアーミー

Talk to Deaf Grandmother (概要)

企業名	バーベキューアーミー(個人開発者)
機器・サービス名	Talk to Deaf Grandmother
問合せ先	info/atmark/bbq-army.com(注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	耳の遠くなった方に音声入力で大きな文字を表示するアプリ
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 耳の遠くなった方の為に音声入力で大きな文字を表示するだけのアプリです。 ● 聴覚障害があっても円滑なコミュニケーションを提供します。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 機能を削り、音声入力のボタンひとつだけにする事で誰でもすぐに利用できるように設計しました。 ● 色覚障害者や高齢の方など文字を大きくはっきり表示するように配慮しました。

⑪ バーベキューアーミー Talk to Deaf Grandmother (概要)

アプリの動作イメージ(どのように利用するか of 解説)



- 1.音声入力ボタンを押し、音声入力。
- 2.音声入力した文字が大きく表示される。
- 3.対象に画面を提示する。
(私の場合高齢の母親に見せて会話する)

←音声入力ボタン

⑪ バーベキューアーミー

Talk to Deaf Grandmother (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

アプリストアでのレビューコメントにて実際に使用している方々の意見を重要視しています。句読点やクエスチョンマークをつけたいとの要望が多かったので修正したりなど、リリース後に適宜変更を加えたりしています。ただ国ごとの評価だと句読点などのダイアログは必要ないとの意見もあり、日本と海外での評価の違いやバランスをどう捉えていくかは今後の課題です。

企業としての取組

ー(個人開発者)

⑪ バーベキューアーミー Talk to Deaf Grandmother(審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ボタン一つのシンプルな音声認識の操作性で、「ちょっと聴覚障害者に話をしたい」という時には有効なツールである。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ボタン一つでの操作を可能とすることにより、機器の操作に不慣れな方、細かい操作ができない人及び色覚障害者等に配慮している。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- テキスト入力や手書き入力ができる機能がないため修正が難しい。修正ができるような機能が期待される。
- 本アプリケーションを使用して話しかけられたろう者等、発話が困難な人が、逆に聞こえる人に話をしたい時に、文字を入力して音声に変換する機能があると、なお利便性が高まる。
- 本製品のシンプルさはそのままに、他製品との連携等ができること、より利便性を享受できる人が増えると期待される。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 情報アクセシビリティ標準を参照していっそうの改善を進めることが期待される。
- 今後、より多くの利用者の声を取り入れることが期待される。

⑪ バーベキューアーミー Talk to Deaf Grandmother(審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 高齢の難聴の親を持つ身で感じたニーズをもとに開発している。
- レビューコメントにて実際に使用している人々の意見をもとに、修正・改善を行っている。

4. 企業としての取組について、優れている点

- ー (個人のため)

⑫ (株)フィート こえとら

⑫ (株)フィート こえとら (概要)

企業名	株式会社フィート
機器・サービス名	「こえとら」アプリ
問合せ先	こえとらアプリサポート窓口 サポートページ: https://www.koetra.jp/ E-mail: koetra-support/atmark/koetra.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	聴覚障害者と聞こえる人とのコミュニケーションを円滑にサポートするスマートフォンアプリです。音声を高精度に文字化する「音声認識」や、文字を音声にする「音声合成」技術を活用しています。「文字」と「音声」を交換し、また「定型文」や「絵文字」を使えば、会話相手へ気持ちを伝えられます。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スマートフォンやタブレット端末を使って、聴覚障害者と聞こえる人が普通に会話している状態とより近い状態でコミュニケーションすることが可能になります。 ● 様々な入力として、音声入力、文字入力、定型文や絵文字使用、手書き・地図に対応しています。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 初めての会話相手には、「こえとら」の使い方をスライドを用いて簡単に伝えられます。 ● 定型文は、生活に必要な会話帳を作成したり、ダウンロードすることが可能です。 ● 文字表示は、文字サイズが大きい全画面に対応し、また、ひらがなカタカナ表示を選べます。 ● 合成音声は肉声により近く、また性別(男声、女声)や発話速度(遅い、早い)が変更できます。 ● 合成音声で発話したことが、「色」だけでなく「振動」でも伝わります。 ● 複数台接続が可能で、対面だけでなく、離れた人同士でも会話が可能です。

⑫ (株)フィート こえとら (概要)

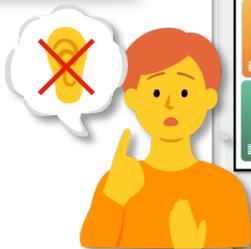
特長

文字を音声で、伝えられます
 声を文字で、伝えられます
 定型文で、伝えられます
 手書きの情報を、伝えられます

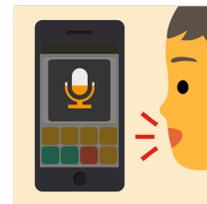
テキスト 定型文入力



<250 文字>



音声入力



<20 秒>



【複数台接続】
近距離文字チャット



【発話支援】
音声再生の活用

旅行先・観光地で



雇用企業・教育現場



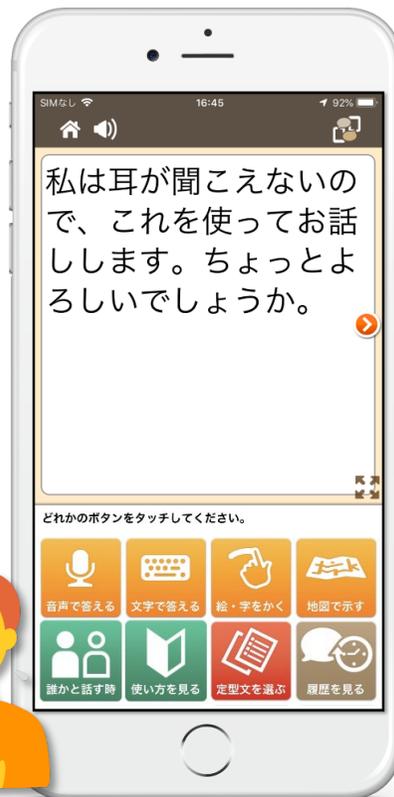
医療現場・自治体



テキスト入力



豊富な定型文



<提供元>



<開発元>

高精度な音声認識
と音声合成技術を
使用しています

<アプリダウンロード>



Download on the
App Store



GET IT ON
Google Play



⑫ (株)フィート こえとら (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

聴覚障害者のコミュニケーションを支援する「こえとら」アプリサービスは、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)による音声認識および音声合成技術の利活用の着想に基づき、聾学校の協力により開発されました。

以降、サポートHPや展示会からの問い合わせにより、高齢者・障害当事者(耳のきこえない人)やその当事者を支援する人の意見が日常的に収集され「こえとら」の進化に生かされてきました。これらの収集された意見に基づき、年に一度、アプリ機能の追加や削減についての精査を図り、企画段階では当事者、リハビリテーションセンター、および、大学研究機関の意見を伺い、たとえば、聾教育の学会発表を通じて専門家の意見を参考にして、開発費用対効果の検討を重ねた上で、機能のアップデートを実施しています。

実証段階においては、リハビリテーション施設の当事者による使用感のフィードバックを受けるなどして、効果検証を実施しています。さらに、「こえとら」にはスムーズなコミュニケーションに必要な定型文機能があり、旅行関係者の協力も得て、旅行中の会話を支援する「旅の会話帳」を追加して利便性は向上しました。今後も、展示会などを通じて意見を反映します。

企業としての取組

情報アクセシビリティに係るアプリ開発時の取り組みの一つに、アプリ利用者から個人情報を含む情報そのものの取り扱いに係る問い合わせがあります。そのため、企業としては、情報セキュリティマネジメントシステム(Information Security Management System: ISMS)の国際規格である「ISO/IEC 27001:2013 / JIS Q 27001:2014」の認証を取得しました。毎年、社員教育や内部監査、および認証の更新などを実施し、外部機関により情報セキュリティ対策への取り組みが認められています。

⑫ (株)フィート こえとら (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 音声入力、音での伝達、定型文や絵文字使用、手書き対応、複数台接続が可能である。そのため、聴覚障害者ときこえる人が声を用いて会話しているような状況でコミュニケーションすることが可能になる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 合成音声の発話速度や性別を変更できる。
- 画面表示が分かりやすい。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 発話者の感情やその場の雰囲気把握するための音声の強弱等の表現ができるよう期待する。
- 発話された内容をわかりやすい文章に変換する機能の搭載を期待する。
- 音声を手話に変換して表示できる機能の搭載を期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 文字出力結果の表示部分やアイコンの背景部分の色について、弱視等の人に配慮されたモードの搭載を期待する。
- 今後、点字ユーザーも使用できるようになることを期待する。

⑫ (株)フィート こえとら (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ろう学校の協力により開発され、企画段階から改良に至るまで聴覚障害者の意見を取り入れており、教育現場のニーズも踏まえている。
- 利用場面を広範かつ具体的に押さえている。
- 「会話帳（旅先での定型文）」を追加。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格「ISO/IEC 27001:2013 / JIS Q 27001:2014」の認証を取得している。
- 支援技術の提供企業として障害当事者と連携する仕組みができています。
- マーケットが必ずしも大きいわけではないにも関わらず、社会に役立つ製品を生み出そうとする姿勢が評価できる。

⑬ (株)フイート SpeechCanvas

⑬ (株)フィート SpeechCanvas (概要)

企業名	株式会社フィート
機器・サービス名	「SpeechCanvas(スピーチキャンバス)」アプリ
問合せ先	スピーチキャンバス アプリサポート窓口 サポートページ: https://www.speechcanvas.jp/ E-mail: support-sc/atmark/speechcanvas.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	聞こえる人と聴覚障害者とのコミュニケーションをサポートするアプリです。発話内容をリアルタイムかつ高精度にふりがな付きで文字化する「音声認識」技術を用いています。また、画面に文字や絵記号を手書きすることにより、テキストのみに比べてより円滑なコミュニケーションが可能になります。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スマートフォンやタブレット端末を使って、音声認識技術を用いて発話内容をリアルタイムで文字化します。 ● 加えて、画面に文字や絵記号を手書きすることにより、テキストのみに比べてより円滑なコミュニケーションを可能にします。 ● 様々な入力として、音声の入力や、画像つきの定型文に対応しています。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 操作ボタンや文字サイズは大きめです。操作ボタンの配置や文字と筆談の面積は自由に動かせ、より多くの人にとっての使い勝手を良くしました。 ● 対面時の利用において、画面の回転はボタンひとつで簡単で見やすくしています。 ● 文字表示は、ふりがな付きを選べます。 ● マイクロホンの接続が可能で、離れたところからでも発話が可能です。 ● 発話内容のログを完全に削除する、法人向けアプリを用意しています。

⑬ (株)フィート SpeechCanvas (概要)

発話内容が振り仮名付きで次々と文字になります。また、筆談してゆびやペンで書いて会話ができます。

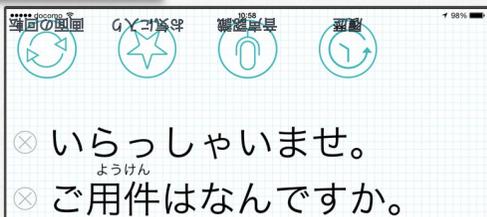
<特長>

- ・ 音声と筆談で、対面コミュニケーションを円滑にします
- ・ 画面はボタンひとつで回転します
- ・ 発話内容が、振り仮名付きで次々と文字になります
- ・ フレーズや画像を「お気に入り」に登録できます

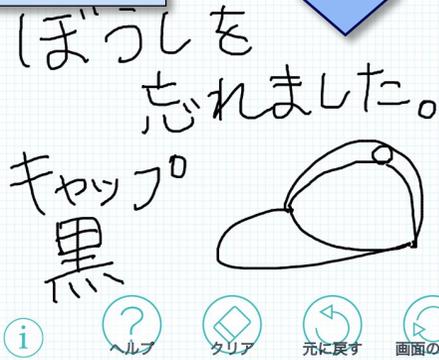
公的機関窓口



音声入力



手書き入力

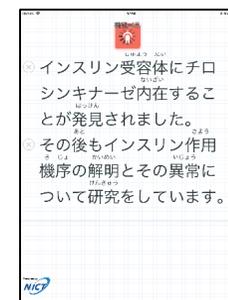


発話内容が文字になって筆談のみと比べて対応時間が短縮します

店頭接客



教育、医療、職場



法人向けアプリ SpeechCanvas for Biz

1. 『システムの信頼性・安全性』
2. 『カスタマイズ対応』

情報漏洩リスクへの対策を強化します
業務特有の固有名詞の登録が可能です

<提供元>



<開発元>



高精度な音声認識技術
を使用しています

<アプリダウンロード・サポートページ>



⑬ (株)フィート SpeechCanvas (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

聴覚障害者のコミュニケーションを支援する「SpeechCanvas」アプリサービスは、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)による音声認識の利活用の着想に基づき、聾学校の協力により開発されました。

以降、サポートHPおよび展示会からの問い合わせ、また自治体窓口による直接の実証実験により、高齢者・障害当事者(耳のきこえない人、耳のきこえにくい人など)やその当事者を支援する人の意見が日常的に収集されています。

上記意見は、当該アプリの進化に生かされてきました。収集された意見に基づきアプリ機能についての精査を図り、企画段階では当事者、自治体、および大学医学部などの意見を伺っています。さらに、開発費対効果の検討を重ねた上で、機能のアップデートを実施しています。

実証段階においては、当事者による使用感のフィードバックを受けて効果検証を実施しています。自治体や業務上での利用に適切な固有名詞が登録できるなどして音声認識の精度が向上し、また情報セキュリティ対策を強化して、業務一般や教育などの専門性を有する生活の利便性は向上しました。

今後も展示会などを通じて意見を反映し、より良いサービスの開発が実現可能な状態となっています。

企業としての取組

情報アクセシビリティに係るアプリ開発時の取組みの一つに、アプリ利用者から個人情報を含む情報そのものの取り扱いに係る問い合わせがあります。そのため、企業としては、情報セキュリティマネジメントシステム(Information Security Management System: ISMS)の国際規格である「ISO/IEC 27001:2013 / JIS Q 27001:2014」の認証を取得しました。毎年、社員教育や内部監査、および認証の更新などを実施し、外部機関により情報セキュリティ対策への取組みが認められています。

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 音声認識技術を用いた発話内容のリアルタイムな文字化に加え、画面に文字や絵記号を手書きすることにより、テキストのみでのコミュニケーションと比べて円滑なコミュニケーションが可能になる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ロゴを完全に削除するアプリケーションを用意している。
- ボタン等が大きめであり、多くの人にとって使い勝手が良いと思われる。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 発話者の感情やその場の雰囲気把握するための音声の強弱等の表現ができるよう期待する。
- 発話された内容をわかりやすい文章に変換する機能の搭載を期待する。
- 音声を手話に変換して表示できる機能の搭載を期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

-

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ろう学校の協力により開発された。サポートホームページ、展示会での問い合わせ対応及び地方公共団体窓口での実証実験を通して聴覚障害者の意見を日常的に収集し、アプリケーションの改良に活かしている。
- 利用場面を広範かつ具体的に押さえている。
- 地方公共団体や業務上での利用に当たって適切な固有名詞を登録している。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格「ISO/IEC 27001:2013 / JIS Q 27001:2014」の認証を取得している。
- 支援技術の提供企業として障害当事者と連携する仕組みができています。
- マーケットが必ずしも大きいわけではないにも関わらず、社会に役立つ製品を生み出そうとする姿勢が評価できる。

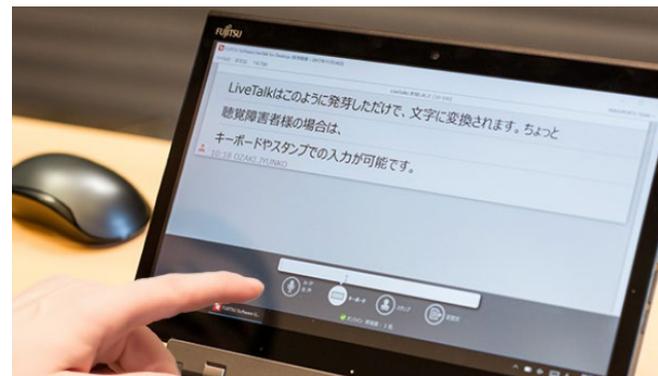
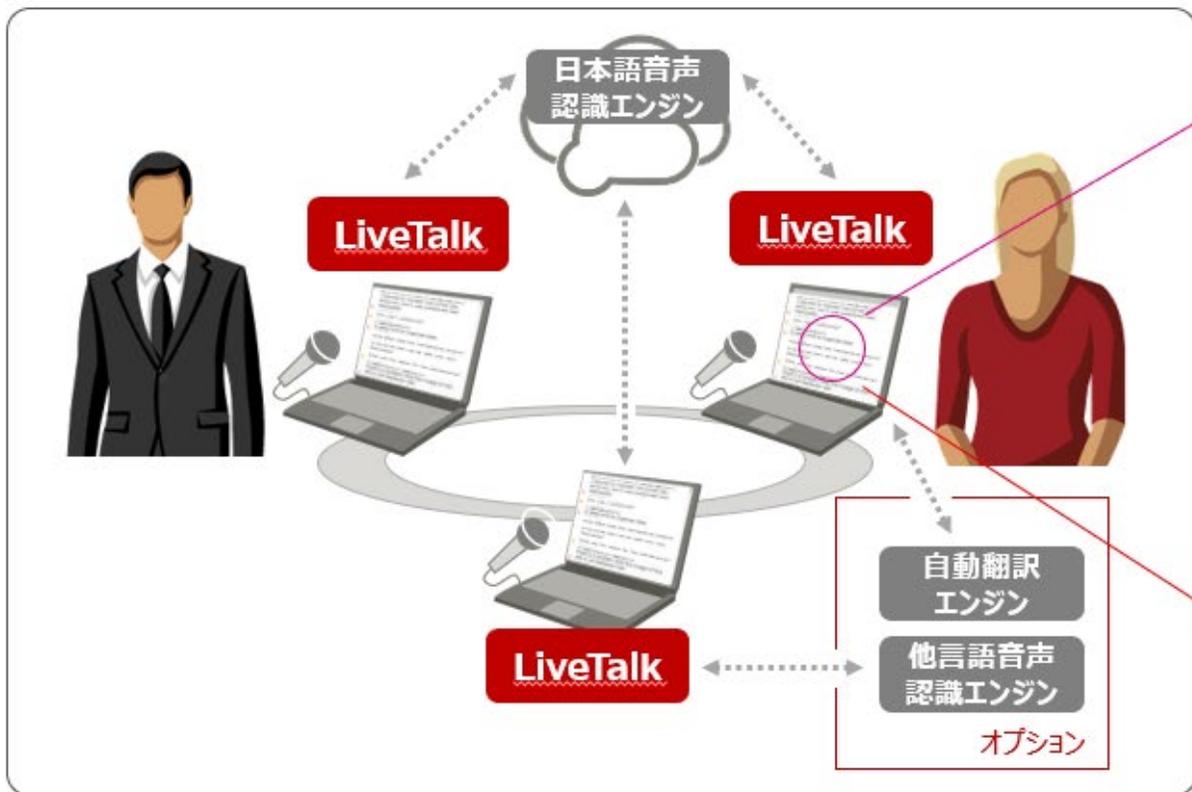
⑭ 富士通(株) LiveTalk

⑭ 富士通(株) LiveTalk (概要)

企業名	富士通株式会社
機器・サービス名	Fujitsu Software LiveTalk
問合せ先	LiveTalk問い合わせ窓口 https://www.fujitsu.com/jp/solutions/business-technology/smart-digitalwork/livetalk/
機器・サービスの概要	発話者の発言を音声認識し、即座に翻訳・テキスト変換することで、発言内容を複数端末にリアルタイムで翻訳・テキスト表示するWindowsアプリです。 聴覚障がい者とのコミュニケーションやグローバル活動の支援ツールとしてご利用いただけます。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発話をリアルタイムに文字化することで、きこえる人と同時に内容を知ることができます。聴覚障がい者の多くが苦手な複数人の会議でも、リアルタイムな文字表示と発言が可能になります。 ● リモート会議など遠隔地同士の会話でもそれぞれのLiveTalkで対面利用時と同じ様に内容を知ることができます。 ● 音声認識に誤認識はつきものです。そのため、リアルタイムに修正することで、話者も音声認識された画面も見ながら、正しく伝わっているか確認し、修正することができます。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● UD教科書体フォントを使用しており、ディスレクシアを含む学習障害を持った方でも読みやすい表示にしています。 ● うまく話ができない人のために、定型文/スタンプ/キーボード入力ですぐ入力する伝達手段が入っています。 ● 単なる音声認識では、複数人のうち誰が発話者が分からないこと、先に話し始めた人だけ認識されるため、他の人がかぶせて話しても内容が入らないことがあります。LiveTalkでは同時に発話したり、話をかぶせたとしても発話者名とテキスト表示をさせるため、誰が話しているのか、話の流れはどう変化したかの状況判断が容易になります。

⑭ 富士通(株) LiveTalk (概要)

LiveTalkは使用端末を選ばず(パソコン、タブレット、スマートフォン等)発言の内容を**テキストとしてリアルタイムに伝達し、保存**ができるコミュニケーションツールです。オプション購入で日本語以外の音声認識や自動翻訳が可能になります。



【クライアントアプリだからこそその実現】

- クラウドには一切データが保存されない高セキュリティ設計
- 日本語AI音声認識をアプリに内蔵したローカル構成も選択可能
- タイムラグのない素早い音声テキスト化表示

⑭ 富士通(株) LiveTalk (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

2013年から3か年、総務省のデジタル・ディバイド解消に向けた技術等研究開発で聴覚障がい者を支援する音声認識をリアルタイム表示する会議支援システムの開発を行ってきた製品がLiveTalkです。

当事者が自ら開発者となり、3～10数人の会議で様々なプロトタイプをつくり評価と改善を重ねています。他の障がい者にも貸出しアンケート及びヒアリングを行っています。例えば、従来の音声認識では複数人が発話するとその認識結果が混在したり先に話した人だけ優先して音声認識される問題がありました。この問題は会議で頻繁に起こり、聴覚障がい者のほとんどが音声認識結果だけを見てため複数人が話していることに気づけないケースが多発していました。そこで複数人の音声認識結果を混在させず、別々に表示する仕様としました。そのほか、ディスレクシア向けにUDフォントを採用したり、評価者の中には話せない方がおられるため、定型文、スタンプ、キーボード入力機能のニーズもあって、追加しています。

2015年、製品化されてからも様々なユーザーよりコメントをいただきながら今年まで絶えず進化しております。

企業としての取組

富士通グループでは、Fujitsu Wayのパーパス・ステートメントに記載しているとおり、「公正と平等を重んじ、ダイバーシティ&インクルージョンを推進します」という考えに基づき、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン(DE&I)の取り組みを進めてきました。

2022年に、「Global DE&I Vision & Inclusion Wheel」を刷新し、より誰もが一体感をもって自分らしく活躍でき、公平でインクルーシブな企業文化を目指すこととしました。新しいビジョンで示しているエクイティ(公平)は、全員に同じものを等しく提供する「平等」とは異なり、あらゆる人が異なる境遇にあること、状況に応じた多様なリソースや機会が必要となることを認識し、対応することを意図しています。こうしたDE&Iに対するより包括的・全体的なアプローチを通じて、自社のビジネスだけではなく、技術やソリューションが社会に与える良いインパクトについても視野に入れ、持続可能な社会の実現を目指しています。

⑭ 富士通(株) LiveTalk (概要)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 発話をリアルタイムに文字化できることにより、きこえる人と同時に内容を知ることができる。会議等の場面でもきこえる人と同等に参加でき、発言することが可能になる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 単なる音声認識では同時発話したり、誰が話したかが文字だけではわからない問題がある。LiveTalkではこの場合でも発話者ごとに表示させる技術を用いており、会話の状況を把握しやすくしている。
- 読みやすい、わかりやすいとされるUD教科書体フォントを使用している。
- うまく話ができない人のために、定型文、スタンプ及びキーボード入力等に対応している。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 音声の強弱等の表現ができると、発話者の感情やその場の雰囲気もわかり、より内容が伝わりやすい。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 発話された内容をそのままテキスト化するだけでなく、わかりやすい文章に変換する機能もあると良い。
- 音声を手話に変換し、ディスプレイ表示できる機能が実現されると良い。

⑭ 富士通(株) LiveTalk (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 聴覚障害者自ら開発者となっており、また他の障害者に利用してもらって意見を求めることにより、聴覚障害者だけでなく様々な人が利用しやすい機器開発につながっている。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 企業理念の「公正と平等を重んじ、ダイバーシティ&インクルージョンを推進します」という考えに基づき、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン (DE&I) の取組を推進している。
- 障害のあるデザイナーが社内にいるため、アクセシビリティへの配慮がなされている。

⑮ (株)プラスヴォイス PVRTC

⑮ (株)プラスヴォイス PVRTC (概要)

企業名	株式会社プラスヴォイス
機器・サービス名	PVRTC®(ピーブイアールティーシー) 遠隔手話(文字)通訳サービス
問合せ先	(手話※) https://pvrtc.plusvoice.co.jp/cc/deaf-consul (MAIL) consulting/atmark/plusvoice.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。 (TEL)022-302-7839(FAX)022-723-1262 ※手話でのお問い合わせは平日11:00-17:00の対応となります。
機器・サービスの概要	本システムは主として聴覚障害者を対象に手話や文字での通訳を介してコミュニケーションを図れるようにしたものです。QRコードを用いたサービス提供もできるため、事前準備が不要で、スマートフォンやタブレット等で即座に手話(文字)通訳者に接続できます。視覚障害者向けサービスも提供しています。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 企業向け:企業HPに手話バナーを設置し、事前登録なしで誰でも当社オペレータを通して企業コールセンターに手話や文字で問い合わせができます。QRコードを設置した販売店では店舗スタッフと遠隔手話(文字)通訳を介してやりとりができます。 ● 自治体向け:意思疎通支援事業のシステムとして利用できます。地域の手話通訳者が遠隔で待機し、利用者はQRコードを読み取ることで接続ができます。 ● 個人向け:個人の端末で当社オペレータに接続でき、地域の手話通訳派遣が難しい場面や突発的な会話(講演会・会議等を除く)等で即座に利用できます。 ● 視覚障害者向け:個人の端末で当社オペレータに接続でき、視覚的サポートが必要な場面(賞味期限表示を読み上げる など)で即座に利用できます。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カラーユニバーサル認証のもと、色覚障害のある方も見え方に合わせて背景色や文字の大きさを選択することができる仕様になっています。 ● 聴覚障害者に向けては文字とアイコン(ピクトグラム)にて各機能の説明をしています。視覚障害者に向けては「通話開始」をタップするだけの簡単な操作となっています。 ● HPには手話動画や手話で相談できる窓口も設置しています(ろう者スタッフも対応可能)

⑮ (株)プラスヴォイス PVRTC (概要)

1. 企業向けサービス



企業HPに手話・文字での問い合わせ用バナー設置



QRコード(店舗の窓口通訳)

2. 自治体向けサービス

利用申請



利用当日

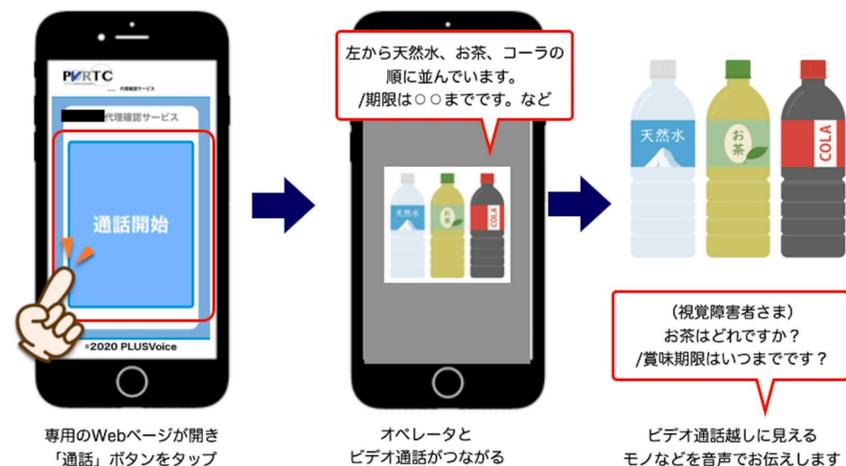


3. 個人向けサービス



※モデルプロジェクトとして2023年10月より提供開始

4. 視覚障害者向けサービス



専用のWebページが開き「通話」ボタンをタップ

オペレータとビデオ通話がつながる

ビデオ通話越しに見えるモノなどを音声でお伝えします

⑮ (株)プラスヴォイス PVRTC (概要)

<p>当事者ニーズを踏まえた開発</p>	<p>本サービスはろう難聴当事者からの「緊急時や災害時など地域の通訳者がすぐに対応できないような場面でも通訳者に接続できるようにしてほしい」という長年の切実な要望に応じて製作・提供しているものです。企画段階から、ろう難聴スタッフの意見を踏まえて製作し、視覚障害者向けサービスでは視覚障害当事者にもご協力いただき改善を重ねてきました。</p> <p>高齢者にはアプリケーションのダウンロードが難しいことなどを踏まえ、QRコードを用いて読み取ったURLを開くとすぐに「通話開始」のインターフェイスが表示されるシステムとしています。「通話開始」を“タップ”するだけで通訳者に接続できるため高齢の方にも分かりやすいと好評です。事前登録不要でどの端末でも接続できるため、操作に不慣れな方や自分の端末が無い方も、相手の端末等で即座に通訳者に接続できます。当事者だけが通訳者に接続するために行動を起こすのではなく、周囲の方も即座に接続できるサービスになっています。本サービスを通して「通訳はろう難聴者のためだけでなく、聴者のためのサービスでもある」という認識を社会の中に広げられることを願っています。</p>
<p>企業としての取組</p>	<p>ろう難聴者の中には日本語に苦手意識をもっている方もいるため、当社HPやSNSでは常に日本語(文字テキスト)と手話、両方の言語でアクセスできるよう努めています。HPでは、電話やメール以外にもPVRTCを通して手話や文字チャットで問い合わせできるよう専用窓口を設置しています。これも通話開始ボタンを押すだけですぐに通訳者あるいは相談担当スタッフへ接続できるため、事前登録不要で利用できます。また、マニュアルも作成し、規約等の内容も合わせて手話動画で視聴できるようにしています。さらに、ろう難聴者が集う大会やイベントにて積極的にブース出展を行い、定期的にzoomでもオンライン説明会を実施するなど、さまざまな年代やニーズに合わせて丁寧な対応を行えるよう心がけています。</p>

⑮ (株)プラスヴォイス PVRTC (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 時間的、物理的な制約で手話通訳者を呼ぶことができない時に、パソコン、タブレット及びスマートフォン等の画面を通して遠隔手話通訳を受けることができるため、これまで手話通訳者を呼ぶ事ができず、やむなく筆談で対応していたろう者が、手話でコミュニケーションすることができる。
- 手話だけでなく、テキストを用いたコミュニケーションが可能である。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 聴覚障害だけでなく、視覚障害への対応もしている。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 対応する手話通訳者の能力が十分であることが担保されるような仕組みを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- —

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 聴覚障害者の要望に応じて開発を始め、障害当事者の意見を反映して製品の改善を実施している。

4. 企業としての取組について、優れている点

- ・ ホームページや問い合わせ窓口等が、日本語と手話の両方でアクセスできるようになっているとともに、マニュアルや規約の内容を手話動画にして手話で理解できるようにしている。
- ・ ろう難聴者が集う大会やイベントにて積極的にブース出展を行い、認知を促進している。
- ・ 障害者団体と連携を行っている。

①⑥ ヤマハ(株) おもてなしガイド

①⑥ ヤマハ(株) おもてなしガイド (概要)

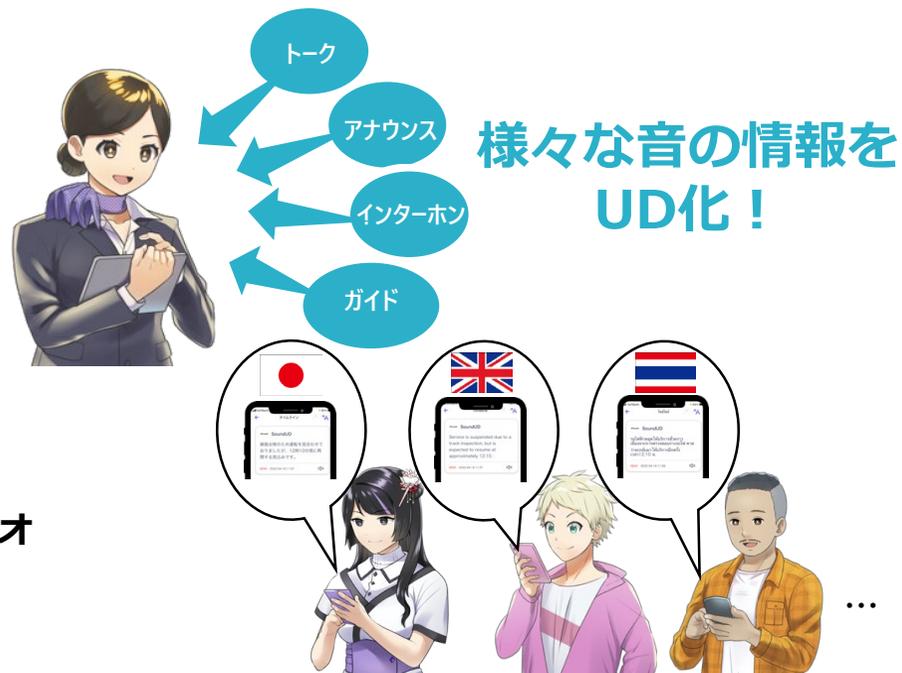
企業名	ヤマハ株式会社
機器・サービス名	SoundUD(音のユニバーサルデザイン)対応サービス 「おもてなしガイド」
問合せ先	03-5488-5070 soundUD-consortium-ML/atmark/music.yamaha.com (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	本サービスは外国人の方、聴覚に不安のある方が安心して暮らせるよう、音のユニバーサルデザイン化をサポートするサービスです。街中の音の情報を、自分のわかる言語の文字や音声として受け取ることができます。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能 おもてなしガイドは音のユニバーサルデザイン化を実現する様々なサービスの総称です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 通訳・文字化ガイド:会議やイベントで登壇者・発表者が話している内容がリアルタイムに多言語翻訳・文字化され、利用者のスマートフォンや会場スクリーンに表示されます。 ● 多言語アナウンス:交通機関や商業施設等で、簡単に多言語のアナウンスが流すことができるツールです。利用者は音声だけでなく、自身のスマートフォンで文字としてアナウンスを見ることができます。 ● スマートフォンでインターホン:施設にあるボードにスマートフォンをかざすと利用できる、外国人や聴覚に不安のある方も使えるインターホンサービスです。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 普段使い慣れた自身のスマートフォンで、事前のアプリケーションのインストールなしにその場でサービスを利用することができます。 ● 自身のわかる言語が自動で設定されます。 ● 特に日本語がわからない外国人、聴覚に不安のある方が安心して使えるよう、官公庁と連携しながら、外国人や聴覚障害者との共同実証を行い、当事者の意見を反映させたUI・UXとなっています。

①⑥ ヤマハ(株) おもてなしガイド (概要)

「おもてなしガイド」は施設とお客様のコミュニケーションを円滑にし、健常者だけでなく外国人や障害者の方にも情報を届けることができる**SoundUD対応**の業務支援プラットフォームです。

対応言語数に制限はなく、既存設備を活用できるため大規模な設備投資は必要ありません。

利用者は施設のデジタルデバイスや自分のスマートフォンを通じて音に関する情報を得ることができます。



代表的なサービス

リアルタイムに情報を配信する
おもてなしガイド
通訳・文字化ガイド

音と文字で伝わる
おもてなしガイド
多言語アナウンス

文字や多言語でもやり取りできる
おもてなしガイド
スマホでインターホン

①⑥ ヤマハ(株) おもてなしガイド (概要)

<p>当事者ニーズを踏まえた開発</p>	<p>開発メンバーの家族に聴覚障がい者がおり、そのメンバーの思いのもと、音を取り扱う企業として音のユニバーサルデザイン化社会を実現すべく2015年から開発がスタートしました。業界横断的に取り組みを広げていくため、2018年に360社以上が参画するSoundUDコンソーシアムを設立しました。コンソーシアムにはユニバーサルデザインや情報アクセシビリティを専門とする関根千佳先生や須田裕之先生をはじめとする8人の有識者が顧問として参画しています。総務省消防庁「外国人来訪者や障害者等における避難誘導に関するガイドライン」や国交省鉄道局「駅の無人化に伴う安全・円滑な駅利用に関するガイドライン」等のガイドライン作成に参画しました。それらに伴う調査事業や実証実験においては、東京都聴覚障害者連盟、全日本ろうあ連盟、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会などの障害者団体や外国人モニターとの共同実験やヒアリング会を実施し、当事者意見を取り入れたガイドライン作成やサービスの改善に努めています。</p>
<p>企業としての取組</p>	<p>ヤマハ株式会社のウェブサイトでは、「JIS X8341-3:2016 高齢者・障害者等配慮設計指針 — 情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス — 第3部：ウェブコンテンツ」に対応することを目標とし、アクセシビリティの確保と向上に取り組んでいます。対象範囲はヤマハ株式会社コーポレートサイト全体で、目標とする適合レベルおよび対応度はJIS X8341-3:2016 の適合レベルAAに一部準拠となっています。現段階で対応できていない一部のページについては、2016年以降、改善を目指し取り組んでいます。詳細は下記URLで情報公開しています。 https://www.yamaha.com/ja/accessibility/</p>

⑯ ヤマハ(株) おもてなしガイド (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 特に緊急時における聴覚障害者への情報伝達手段として非常に有効である。
- ポイント付与や混雑電車の案内等の他の企業との連携が評価できる。
- 自身のスマートフォンで利用することができ、大掛かりな設備が不要な点が便利である。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- —

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 発話された内容をわかりやすい文章に変換する機能の搭載を期待する。
- 手話動画データを送信する機能の搭載を期待する。
- 音声を手話に変換してそのデータを送信する機能の搭載を期待する。
- 音のUD化という概念を広げた更なる開発を期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- —

①⑥ ヤマハ(株) おもてなしガイド (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 障害者団体との共同実験やヒアリングを行い、サービスの改善に活かしている。

4. 企業としての取組について、優れている点

- JIS規格に対応することを目標にアクセシビリティの確保と向上に取り組んでいる。
- 障害当事者との連携の姿勢がみられる。
- 官庁との協力を行っている。
- コンソーシアム場を利用して社会実装に取り組んでいる。
- ダイバーシティ&インクルージョンを掲げるだけでなく、実際に取り組んでいる。

⑰ (株)ユニコーン 重度障害者用意志伝達装置
miyasuku EyeConSW

(株)ユニコーン 重度障害者用意志伝達装置 miyasuku EyeConSW (概要)

企業名	株式会社ユニコーン
機器・サービス名	重度障害者用意志伝達装置 miyasuku EyeConSW
問合せ先	株式会社ユニコーン 電話：082-819-0230 E-mail : info/atmark/e-unicorn.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	ALS・SMA・筋ジストロフィー等の重度身体障害者が、視線やスイッチを活用してパソコンを操作し、日常会話や勉強・仕事を行う等、QOL向上を実現する装置です。 ※ miyasuku EyeConSWシリーズは、補装具費支給制度をご利用いただけます。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能 miyasuku EyeConSWは、発話による意思の伝達や筆談等で意思を伝達することの難しい方が、スイッチや視線による操作で意思を伝えるための装置です。文章入力、読み上げ、メール、環境制御等の豊富な機能で意思伝達をスムーズに図ることができます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【パソコン画面の例】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【スタンドへの実装例】</p> </div> </div> <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容 「スイッチと視線を組み合わせて使う」ことで、素早い文字入力が可能になります。また、眼球運動・視力の状態を考慮し、ユーザごとに細かな設定が可能になっております。例えば、注視した文字の拡大表示、文字色、背景色、コントラスト等を変更したり、更に自分の声を登録しておけば、自分の声で発話することも可能です。また、文字盤はデフォルトで数種類を準備しておりますが、自作・変更できますので、いつも使う語句やSNS／メールなど、ワンキーで操作が可能になります。</p>

(株)ユニコーン 重度障害者用意志伝達装置 miyasuku EyeConSW (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

miyasukuEyeConSWは「重度障害者用意志伝達装置」として視線・スイッチを使って、パソコン操作、文字入力を可能としたソフトウェアです。視線入力装置は、Tobii Dynavox社製PCEye5(世界で最も販売されているアイトラッカー装置)を使っています。

約9年前より本ソフトウェアの開発に取り掛かりましたが、多様な重度障害者の病状に対応することに非常に苦勞をしました。そのため、当初は視線入力が必要な重度障害者(主にALS/SMA患者)宅に直接出向き、様々な病状、体位(車イス利用/寝たきり)、目の状態(眼振の状況/斜視など)で、だれでも視線入力ができるよう、ソフトウェア側で様々な調整機能、改善工夫を組み込みました。

例) 注視時間対応:当事者の目の使い方に合わせて、注視開始時間/注視時間を0.1秒単位で設定できるようにする
 視線が定まりにくい場合の対応:注視ガイド設定、文字拡大設定
 斜視対応:視線入力用キーボードを画面の上下左右に寄せる設定

また、最近ではパソコンに慣れた患者が増えており、パソコンの様々な機能(オフィス、メール、WEB、Line、画像編集)を使うニーズが増えています。miyasuku EyeConSWでは、視線でパソコンのキーボードとマウス操作全てを可能としており、当事者の中には、決算書を作成される方、YouTuberの方もいらっしゃいます。また、随時、当事者のニーズに対応しており、最近では「視線での文字特定時の吸着率を上げる」改善を実施しました。

企業としての取組

当社「重度障害者用意志伝達装置 miyasuku EyeConSW」の開発では、3カ月毎に、障害当事者およびパートナー様の要望を踏まえ、アクセシビリティを含めた機能改善を検討する場を設定しています。

また、実態としてはPC操作に詳しくない支援者の方が多いため、「簡易マニュアル」の提供、操作・機能を説明した「miyasuku勉強会」の動画(YouTube)を提供しています。

なお、本製品以外に miyasuku EyeConSWのベース技術を応用し、障害の有無・障害の程度、年齢に関係なくインクルーシブスポーツ実現に向け、ボッチャシステム(eBOCCIA[特許取得済・商標登録済])を開発し、全国展開を実施中です。更に、発達障害のある幼児・児童向けに、特に視線を使ったビジョントレーニングに関するシステムを開発中です。

また、重度障害者のQOL向上のため、以下の機器開発及び取り組みを実施しています。

- 視線またはスイッチによる市販ゲーム操作システム(Nintendo Switch, SONY Play Station3,4,5) [製品化済]
- 視線またはスイッチによるエアマット操作システム[製品化済]
- 視線またはスイッチによる電動車椅子開発研究
- 介護用ロボットの視線操作システムの開発研究[特許取得済]

(株)ユニコーン 重度障害者用意志伝達装置 miyasuku EyeConSW (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 発話や筆談が難しいALS（筋萎縮性側索硬化症）やSMA（脊髄性筋萎縮症）等の神経難病患者にとって、代替コミュニケーションの存在は生きる意欲に直結するものである。
- 企業等の障害者の法定雇用率が今後上昇していく中で、障害当事者が健常者と同じ仕事をするをサポートする製品である。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- スイッチと視線（アイトラッキング）での操作いずれにも対応しており、直感的な操作を目指した設計となっている。
- 様々なユーザーの身体状況に対応するために操作モードが充実している。
- ALSは60～70代での罹患が多いため、加齢に伴う視力の低下といった不安を抱えているケースが多いが、本製品は拡大機能を設けている。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 力に不安を抱え、音を頼りにスイッチ操作を行うようなユーザー層への更なる配慮が期待される。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 操作モードが充実している反面、各種設定項目の変更操作が複雑となり、弱視のユーザーは混乱することが懸念される。操作モードの変更において、より簡便且つ簡潔なUIを考慮することで、更に幅広いユーザー層のサポートが可能となることが期待される。
- スクリーンリーダーとの連携が期待される。

(株)ユニコーン 重度障害者用意志伝達装置 miyasuku EyeConSW (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 神経難病の中でも最重度とされるALSやSMA患者宅に直接出向き、様々な療養シーンに対応できるよう調整し改善工夫を行っている。
- 販売後も当事者ニーズに寄り添い、3カ月ごとの障害当事者及びパートナーの要望を踏まえた機能改善、その他、重度障害者のクオリティオブライフの向上のため、多様な製品開発を行っている。
- 高等専門学校（高専）と共同研究している。高専は卒業生が地元の企業に勤める場合が多く、学生時代に取り組んだ内容を実社会で活かすことができる。

4. 企業としての取組について、優れている点

- SNSの活用に積極的であり、障害当事者にも最新情報が届くよう情報発信を継続している。
- eスポーツにも着目しており、障害当事者等の社会参加を促すようなモノづくりの姿勢である。

- ⑱ ラトックシステム(株)
スマート家電コントローラ
 - ⑲ ラトックシステム(株)
smaliaスマートリモコン
-

⑱ ラトックシステム(株) スマート家電コントローラ (概要)

企業名	ラトックシステム株式会社
機器・サービス名	スマート家電コントローラ (RS-WFIREXU、RS-WFIREX5、RS-WFIREX4、RS-WFIREX3)
問合せ先	(問い合わせフォーム https://www.ratocsystems.com/form_press/ , 電話番号 06-7670-5056)
機器・サービスの概要	本製品は、スマートフォンでの操作や設定、スマートスピーカーを用いた音声操作により、付属のリモコンを使用せず、テレビや照明、エアコンなどの家電製品を簡潔に操作するものです。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 音声で家電操作: 各家電の付属のリモコンやスマートフォンを使わずに、スマートスピーカーと連携させることで家電を操作できます。 (例)「テレビをつけて」「電気を消して」 ● 複数家電を一括操作: 本アプリ内の「マクロ」機能の使用で、1タップで複数の家電をまとめて操作する設定が可能です。 (例)「エアコンを28℃、照明をONにする操作を設定」 ● 外出先から家電操作: 本アプリを使用することで外出時でも家電操作が可 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 色覚なしでの利用・・・本アプリを操作する際に色で判断する操作を必要としません。 ● 音声や発話なしでの利用・・・スマートフォンやタブレット操作のみで設定や操作が可能です。 ● サポート対応・・・365日対応可能な電話窓口や製品サイトにて問い合わせフォームを設置しています。



⑱ ラトックシステム(株) スマート家電コントローラ (概要)

【操作方法】

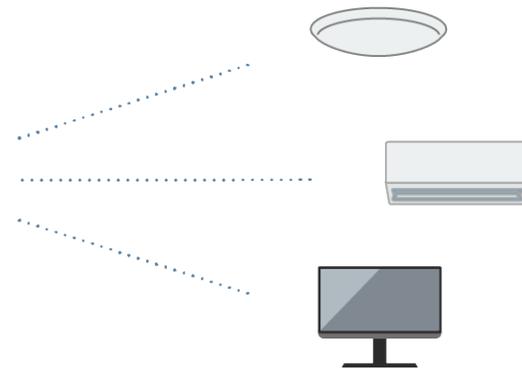
- ・アプリで設定/操作
- ・スマートスピーカーで音声操作



スマート家電コントローラ

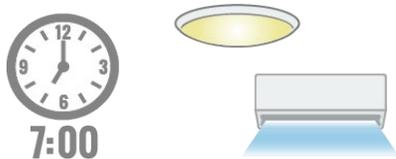


照明、エアコン、テレビ等の
赤外線リモコン対応家電を操作



タイマー設定

指定した時刻にリモコン信号を送信。
アプリから本製品にタイマー情報を書き込みます。



(例)朝7時に照明とエアコンON

マクロ設定

1つのボタンに複数の操作を登録。
よく使う操作をスマホですぐに実行できます。



(例)テレビON → 5チャンネルに設定

オリジナルリモコン作成

よく使うリモコンのボタンを集めて1つのリモコンとして登録できます。



ボタンのウィジェット作成

よく使うボタンやマクロ設定のウィジェットを登録すると、アプリで起動する手間なく操作できます。



⑱ ラトックシステム(株) スマート家電コントローラ (概要)

<p>当事者ニーズを踏まえた開発</p>	<p>企画・設計開発・試作品のテスト段階等では当事者や専門家から意見を聞く機会はありませんでしたが、製品発売後に障害者向けの展示会への出展依頼を受けての製品出展、障害者IT地域支援センターにおける製品の展示など、製品発売後に障害者向けの情報アクセシビリティの一事例として当事者にニーズがあることを認知した経緯があります。</p>
<p>企業としての取組</p>	<p>2023年5月に実施された、アクセスエール株式会社主催による「さまざまな障害者が身体の動く部位を使って家電機器を操作できる汎用リモコン開発」支援のクラウドファンディングにおいて、スマートフォンやタブレットのアプリから家電操作をおこなうための赤外線ユニットのシステム開発に協力しました。</p> <p>本リモコンは、テレビやエアコン、照明、扇風機などの赤外線対応機器の信号を予め準備し、また、学習リモコン機能も搭載したさまざまなニーズに対応できる「環境制御装置」として使用可能な障害者や高齢者の暮らしやコミュニケーションの課題解決に向けた製品として開発が進められました。同年6月末、同クラウドファンディングは目標金額300万円を達成し終了しました。</p> <p>また、スマート家電コントローラの後継である『smaliaスマートリモコン』では、物理ボタンを使って登録済みの家電の操作ができるしくみを搭載したオプション品『smalia スマートボタン』を開発しました。スマートフォンの操作が必要なく、決まったコマンドを送信するため誤操作の心配がなく、複数の家電製品をまとめて1プッシュで操作することが可能です。</p>

⑱ ラトックシステム(株) smaliaスマートリモコン (概要)

企業名	ラトックシステム株式会社
機器・サービス名	smaliaスマートリモコン (RS-WBRCH1)
問合せ先	(問い合わせフォーム https://www.ratocsystems.com/form_press/ , 電話番号 06-7670-5056)
機器・サービスの概要	本製品は、スマートフォンでの操作や設定、スマートスピーカーを用いた音声操作等により、付属のリモコンを使用せず、テレビや照明、エアコンなどの家電製品を簡潔に操作するものです。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 音声で家電操作: 各家電の付属のリモコンやスマートフォンを使わずに、スマートスピーカーと連携させることで家電を操作できます。 (例)「テレビをつけて」「電気を消して」 ● 複数家電を一括操作: 本アプリ内の「シーン」機能の使用で、時刻や室温等の条件に合わせて複数の家電をまとめて操作する設定が可能です。 (例)「朝7時にエアコンを28℃に、照明をONにする操作を設定」 ● 外出先から家電操作: 本アプリを使用することで外出時でも家電操作が可能です。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 色知覚なしでの利用・・・本アプリを操作する際に色で判断する操作を必要としません。 ● 音声や発話なしでの利用・・・スマートフォンやタブレット操作のみで設定や操作が可能です。 ● サポート対応・・・365日対応可能な電話窓口や製品サイトにて問い合わせフォームを設置しています。



⑱ ラトックシステム(株) smaliaスマートリモコン (概要)

【操作方法】

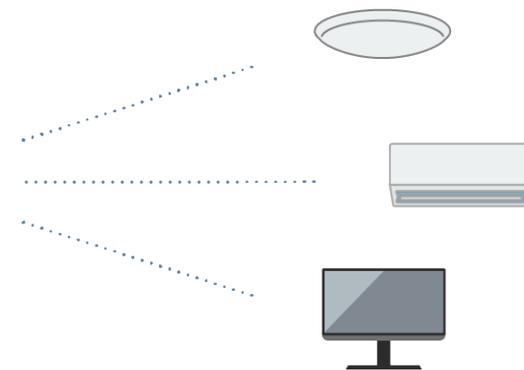
- ・smaliaアプリで設定/操作
- ・スマートスピーカーで音声操作



スマリア
 **smalia** スマートリモコン



照明、エアコン、テレビ等の
赤外線リモコン対応家電を操作



外出先から家電操作



室温に応じて冷房ON



自分の声で家電OFF



⑱ ラトックシステム(株) smaliaスマートリモコン (概要)

<p>当事者ニーズを踏まえた開発</p>	<p>旧モデル発売後に、障害者向けの展示会への出展依頼を受けての製品出展、障害者IT地域支援センターにおける製品の展示など、障害者向けの情報アクセシビリティの一事例として当事者にニーズがあることを認知した経緯があり、実際に視覚障害者や要介護者による使用事例もあります。今回応募する新モデルに関しては、アプリのホーム画面のみで登録した家電の「入/切」の操作が可能になる等、少ない操作回数での家電操作に対応しました。</p>
<p>企業としての取組</p>	<p>2023年5月に実施された、アクセスエール株式会社主催による「さまざまな障害者が身体の動く部位を使って家電機器を操作できる汎用リモコン開発」支援のクラウドファンディングにおいて、スマートフォンやタブレットのアプリから家電操作をおこなうための赤外線ユニットのシステム開発に協力しました。</p> <p>本リモコンは、テレビやエアコン、照明、扇風機などの赤外線対応機器の信号を予め準備し、また、学習リモコン機能も搭載したさまざまなニーズに対応できる「環境制御装置」として使用可能な障害者や高齢者の暮らしやコミュニケーションの課題解決に向けた製品として開発が進められました。同年6月末、同クラウドファンディングは目標金額300万円を達成し終了しました。</p>

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 音声認識を活用して家電等のリモコンを一元化して操作できること。
- ・ 「リモコンの場所がわからなくなる」といった問題はどの家庭でも起きうるものであり、製品の開発目標が優れている。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 健常者がリモコンを手で操作するのが難しい場合にも対応していること。
- ・ 全盲、弱視、色覚感受性のある人に配慮しており、電話でもサポートを受けられること。
- ・ スマートスピーカー等と組み合わせることで肢体不自由の人にも有効である。
- ・ 環境制御装置に応用できるという点で評価できる。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ -

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 「製品の特性として、具体的にどのような(障害特性に合わせた)配慮がされているか」をわかりやすく公表することを期待する。
- ・ 視覚障害者向けに、スマートスピーカーに話しかけて、家電を操作できる機能の実装を期待する。

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- リリース後に障害者向けの展示会への出展等から当事者ニーズを把握し、更なるアクセシビリティ向上を目指している姿勢が評価できる。
- 障害者IT地域支援センターにおける製品の展示等を通じて、製品の改良が進められてきたことが評価できる。

4. 企業としての取組について、優れている点

- クラウドファンディングに協力する等しており、障害者や高齢者の暮らしやコミュニケーションの課題解決に向けた製品開発において期待ができる。

②⑩ (株)リコー PeKoe

② (株)リコー Peko (概要)

企業名	株式会社リコー
機器・サービス名	リコー聴覚障がい者向けコミュニケーションサービス「Pekoe(ペコ)」
問合せ先	zjp_pekoe_contact/atmark/jp.ricoh.com (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。 (Pekoe推進チーム) 070-4406-8203(リコー岩田)
機器・サービスの概要	会議などの場で聴覚障がい者の方と聴者の方が気軽に情報保障を行いながらタイムリーに会話や議論をすることを可能にする音声認識による文字起こしシステム。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● マイクの音だけでなく、リモート会議や動画再生の音を特別な機材を用意せずにリアルタイムに文字起こしが行えます。 ● 会議の内容がリアルタイムで文字起こしされ、その内容は共有リンクで簡単に共有でき、音声認識の誤変換を参加者全員で手軽に修正できるため、情報保障をリアルタイムに行えます。 ● 話者分離機能により、同じマイクで複数の話者が発言した場合も誰が発言したかが話者ごとにアイコンと色分けで表示されるため、容易に理解することができます。 ● 発話していない参加者もテキストチャットによる音声発話や「いいね!」「わかりません」などのリアクションをワンクリックで行えるので、手軽に双方向コミュニケーションを行えます。 ● 画面キャプチャと文字起こし結果をまとめた会議記録や豊富なファイル出力機能により、聴覚障がい者だけでなく、聴者の方も便利に利用できます。 ● 聴者の方にも聴覚障がいについて正しい知識を身につけていただき、円滑なコミュニケーションを図れるように、Pekoe独自の体験型の活用支援セミナーを開催しています。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 画面表示設定: フォントサイズの変更や表示スタイルの変更、修正箇所の表示方法など、利用状況に合わせて表示方法を選ぶことができます。 ● ふりがな表示: 必要に応じて設定でふりがなを表示することができます。

② (株)リコー Pekoe (概要)

株式会社リコーの社内実践から始まった

『聴覚障がい者向けコミュニケーションサービス「 Pekoe (ペコ)』

聴覚障がいのある方との働き方が劇的に変わります

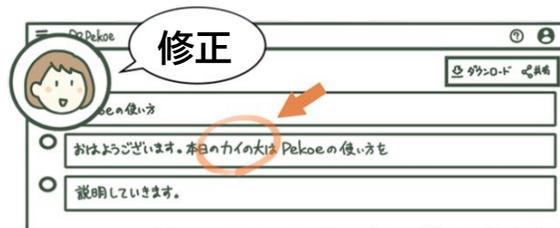
簡単操作でみんなの声を文字化

簡単操作で会議音声をすぐにテキスト化。議論されている内容がリアルタイムで文字になります。



参加者が変換結果を気軽に修正

会議のURLにアクセスすれば、誰でもその場で誤変換を修正して正しい情報が伝えられます。



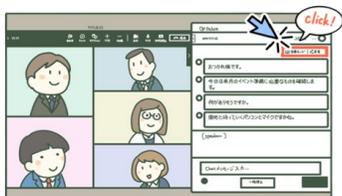
双方向コミュニケーション

発話が難しい方もチャットで発言でき、「いいね！」など双方向コミュニケーションが実現します。



遠隔会議の音声も文字化

遠隔会議に参加している人の声も文字起こし。話の内容がリアルタイムにわかり議論に参加できます。



イベント配信や動画閲覧にも

イベント配信や研修動画の会話もその場でわかります。



会議録として誰もが使える

会議録としてもメモとしても使うことができ、聞こえない方だけでなく、みんなが助かるツールです。



② (株)リコー Peko (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

2019年の開始時点では日本語の音声認識率は低かったものの、聴覚障害者にとって会議の発言内容が可視化されることは大変助かるとの声があり、社内実践を開始しました。社内の聴覚障害者約30名にヒアリングをし、共に働くメンバーと一緒に使ってもらったところ、Pekoeを使用することでPC入力が不要となり、修正が必要なところだけ対応すればよいため、サポートが容易になるという声が寄せられました。当事者からは支援を頼みやすくなり気持ち楽になるという意見もありました。部門の上司からは、聴覚障害を持つメンバーが気軽に会議に参加できることで業務がスムーズになり、全体的な業務効率の向上につながるとの評価をいただきました。2020年7月からは社外の企業約60社へのヒアリングとトライアルを開始し、フィードバックをもとに改良を加えて、2022年8月から販売を開始しました。導入したお客様からは、発言者の識別や、定型文機能によるチャット入力の容易化、「いいね！」などのリアクション機能の追加、発言の修正方法の改善など、数多くのご要望をいただいています。要望には順次対応しており、今後も継続的に改善を進めていきます。

企業としての取組

2019年の検討開始以降、全社イベントでPekoによる情報保障を行っています。毎年行われるグローバルな創立記念イベント、SDGsイベント、社長からの社員へのメッセージ配信になどについて、聴覚障害者も同時に正しい情報が得られるよう、リアルタイム文字配信を行っています。イベントでは事前の辞書作成や当日の誤変換修正で協力メンバーが必要なため、広く社員に呼び掛け、参加を募っています。

また、導入済の部署では、聴覚障害の理解を深める機会を設け、チーム内でフォロー体制ができるよう支援を行っています。その結果、リーダーが率先してPekoを活用することで、情報格差が解消され、当事者が昇格試験に合格する、チームリーダーになるといった事例が生まれています。

企業(株式会社リコー)としてのアクセシビリティの取組は以下のページの通り「人にやさしい」をモノづくりの大きなコンセプトに掲げて、積極的にアクセシビリティに取り組んでいます。

<https://jp.ricoh.com/accessibility>

ウェブサイトのついての方針は以下のページの通りWCAG2.1を品質基準としてアクセシビリティの確保と向上に取り組んでいます

https://jp.ricoh.com/terms_of_use/accessibility

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 発話をリアルタイムに文字化できることにより、きこえる人と同時に内容を知ることができ、会議等の場面でもきこえる人と同等に参加でき、発言することが可能になる。
- ウェブ上での会議や研修動画の音声をリアルタイムで文字化して表示することにより、聴覚障害者も様々な社内イベントや研修に参加することができ、きこえる職員と同等にスキルアップすることが可能になる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 表示フォントサイズがアプリケーション上で96フォントサイズまで変更可能となっており、自由に変更できる。アプリケーション自体で文字を拡大でき、かつ、画面の中で文章が折り返されるため、読みやすい。
- 「全ての操作メニューにテキストを使っている」と、音声読み上げ機能を使用した際に適切に読み上げられる。
- 会議後に、記録ログを残すか否かの設定ができることが便利である。盲ろう者は文字を読むことに時間がかかり、メモを取ることも難しいため、会議終了後に改めて読み返せるのが良い。
- 会話は個人情報が含まれる可能性が高く、音声認識アプリケーションとして十分なプライバシーの配慮がされている。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 発話者の感情やその場の雰囲気把握するための音声の強弱等の表現ができるよう期待する。
- 発話された内容をわかりやすい文章に変換する機能、音声を手話に変換して表示できる機能の搭載を期待する。
- 他の製品への機能の組み込みを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- スクリーンリーダーを利用した際の、点字ディスプレイでの使い勝手が向上することを期待する。
- 弱視者への対応として、背景を黒く変更することや、文字の色を白や黄色等に変更できるようになることを期待する。

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 社内の聴覚障害者が実際に使用した結果に加え、他社企業へのトライアルやヒアリングをもとに改善を加えている等、利用者からの意見・要望に応じて改善を進めている。

4. 企業としての取組について、優れている点

- 全社イベントや社長からの社員へのメッセージ配信等について、聴覚障害者も同時に正しい情報が得られるよう、リアルタイム文字配信を行っている。更に、聴覚障害への理解を深める機会を設けるとともに、チーム内でフォロー体制を構築できるよう支援を行い、聴覚障害者の職員の情報格差の解消に取り組んでいる。
- 企業として「人にやさしい」をモノづくりの大きなコンセプトに揚げ、積極的にアクセシビリティに関する取組を実施している。
- 聴覚障害者が実力を発揮してチームリーダーとして勤務している等、社内環境整備に力を入れている。
- 社内の障害当事者を探すにあたって労力がかかっていると考えられ、その点を評価したい。
- 企業等の障害者の法定雇用率が今後上昇していく中で、障害当事者が健常者と同じ仕事をするをサポートしていく製品を開発している点を評価したい。

②① フリー(株) free請求書アプリ

⑳ フリー(株) freee請求書アプリ (概要)

企業名	フリー株式会社
機器・サービス名	freee請求書アプリ
問合せ先	広報 土島あずさ (メールアドレス pr/atmark/freee.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。電話番号 070-4191-1967)
機器・サービスの概要	本スマートフォンアプリは、主に個人事業主や小規模法人などスモールビジネスを営む方が出先でも手間をかけずに、インボイス制度に対応した請求書の発行・送付が行えるものです。アクセシビリティを必要とする方を含めて、全ての利用者が自身の最適な状況に調整して利用できます。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インボイス制度に対応した見積書・請求書の発行、送付:画面に従って入力していくことで、インボイス制度に対応した見積書、請求書が発行され、本アプリ上から書類を送付できます。また、書類のレイアウトや項目のカスタマイズにより、自身の最適な書類作成が可能です。 ●送付、入金管理:送付と入金ステータスの表示、該当する書類を絞り込むことにより、請求・入金漏れを防ぎます。 ●請求内容の仕訳登録:「freee会計」と本サービスを連携することで、請求内容の仕訳を登録し帳簿の作成を行います。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文字サイズ調整:ユーザーは、端末の設定で自身の最適な文字サイズを調整した場合に、本アプリの全ての情報の閲覧、操作ができます ●スクリーンリーダーでの利用:ユーザーは、本アプリ上の全ての情報の閲覧、操作がスクリーンリーダーで利用できます ●ダークモード時の利用:ユーザーは、端末をダークモードに設定した場合に本アプリの全ての情報の閲覧、操作ができます

②1 フリー(株) freee請求書アプリ (概要)



一覧画面



作成画面



詳細画面

②1 フリー(株) freee請求書アプリ (概要)

<p>当事者ニーズを踏まえた開発</p>	<p>社内の全盲の当事者/アクセシビリティの専門家に企画・設計開発の段階で懸念点を相談、実装方法の改善を行いました。 リリース前のテスト段階で全盲の当事者が問題なく利用できるかを基準として改善に務め、リリースしました。</p>
<p>企業としての取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●アクセシビリティ専任メンバーの存在(デザインシステムチームと一体となっている) ●全社員向けに、入社時にアクセシビリティオンボーディングを実施 ●アクセシビリティを考慮したデザイン・実装コンポーネントの作成 ●アクセシビリティガイドライン・チェックリストの制定と公開 ●ガイドライン・チェックリストの全プロダクトでの運用 <p>参考:内閣府「障害者による情報取得等に資する機器等の開発及び普及の促進並びに質の向上に関する協議の場」での発表資料 https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/jouhousyutoku/k_3/pdf/s4.pdf</p>

②1 フリー(株) freee請求書アプリ (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- アクセシビリティを必要とする利用者を含めて、すべての人に最適な利用環境を提供できるように開発されている。
- 企業等の障害者の法定雇用率が今後上昇していく中で、障害当事者が健常者と同じ仕事をすることをサポートしていく製品である。障害者雇用を進めるうえで意義のある製品である。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- JISX8341で対応が不足している項目の存在も確認し、更なるアクセシビリティ向上の姿勢が見られる。
- 全盲と弱視(ロービジョン)への配慮については、部分的に対応しているとなっているが、かなり配慮に向けて取り組んでいることが見える。色覚感受性のある人に対する配慮も対応している。
- テキストベースによるサポートにも対応している。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 当該システムは事務部門で働く視覚障害者が使用する可能性が高いため、ドキュメントについても、テキストベースのものを用意すること等が期待される。ただし、直感的に使用できるアプリを目指しているのであれば、サポートを充実しておくことで対応可能とも考えられるため、ユーザーからのフィードバックを基に今後も配慮された製品開発をお願いしたい。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 帳票出力(PDF)の読み上げ機能への対応が期待される。

②1 フリー(株) freee請求書アプリ (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 社内の全盲の当事者やアクセシビリティの専門家に企画・設計開発の段階で懸念点を相談し、実装方法の改善を行っている。
- リリース前のテスト段階で全盲の当事者が問題なく利用できるかを基準として改善に努め、リリースしている。

4. 企業としての取組について、優れている点

- アクセシビリティ専任メンバーを開発やデザインチームに入れている。
- 社内全体でアクセシビリティについて共通認識を取れるように取り組んでいる。
- 自らアクセシビリティのガイドラインやチェックリストを公表している。

②② (株)SmartHR SmartHR人事評価

(株)SmartHR SmartHR人事評価 (概要)

企業名	株式会社SmartHR
機器・サービス名	人事評価システム
問合せ先	accessibility/atmark/smarthr.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	人事・労務業務を効率化しながら蓄まった人事データの一元管理が可能な人事評価システム
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 部署・雇用形態ごとなどに、複数の評価テンプレートから評価シートを作成できます。 ● 評価シートでは、テキスト入力の外、選択入力や表組みなど多様な入力形式を指定することができます。 ● SmartHRに登録されている従業員へ作成した評価シートを送信できます。 ● 評価業務の進捗を一覧で確認し、管理することができます。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● キーボード操作: キーボードのみで、すべての操作が可能です。 ● 音声読み上げ: 国内シェアの高い複数のスクリーンリーダーの読み上げに対応しています。 ● 色のカスタマイズ: OSのコントラストテーマや色反転モードに対応しているため、ユーザーが見やすいと感じる色の組み合わせでシステムを利用できます。 ● 表示する情報を限定するモードの提供: 表形式の情報を、一行ずつに限定して表示するモードを提供しています。これにより、手の不自由さや、限られた視野などのため、画面の横方向移動が難しいユーザーが、画面の横方向移動なしでの表の閲覧や入力を行うことができます。

人事評価メニュー 評価シート 評価対象者



社員番号: 118

営業 花子さんの2022年上期

変更履歴

評価の流れ

その他の情報

評価者の情報

評価対象者の情報

目標承認

目標設定 | 担当者 永 主真人

評価シート

最終更新日時: 2022/01/21 08:35 更新とは?

更新

業績評価

能力評価

総合評価

目標

今期の目標を入力してください

1行ずつ表示

売上目標

単位 (千円)

1000



利益率目標

単位 (%)

40



(株)SmartHR SmartHR人事評価 (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

SmartHRでは、障害当事者の複数社員による製品のアクセシビリティテストを実施しています。異なる障害を持つ社員が、それぞれの特性の観点からアクセシビリティ上の問題を指摘し、改善を進めています。

また、完成版製品のテストだけではなく、製品の仕様策定や、完成前の製品レビューにも障害当事者の社員が関わっています。

他にも、障害者支援の経験がある社員や、障害者や高齢者の在籍するユーザー企業にヒアリングを実施し、意見や要望を製品に反映しています。

企業としての取組

2022年にアクセシビリティを専門とする部署(アクセシビリティ本部)を設立。全盲の障害当事者を含むアクセシビリティの専門家と、アクセシビリティテストを実施する障害当事者が在籍しています。

全社向けに、アクセシビリティ研修を定期実施しています。

製品開発については、アクセシビリティ方針とアクセシビリティガイドラインを策定しています。また、ガイドラインに沿った開発を持続するため、専門家による開発者の育成を行っています。

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 全盲や高齢者でも人事評価サイトが利用できるように機能実装している。
- 視覚障害者が人事評価を行うということを踏まえて開発や調査が行われ、アクセシビリティが設計されている。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- アクセシビリティに配慮されたマニュアルの提供と、専用サポートが用意されている。
- スクリーンリーダーに対応したシステムとなっている。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- —

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 弱視(ロービジョン)に対する配慮として、読み上げ以外の点への対応が期待される。

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 異なる障害を持つ社員が、それぞれの特性の観点からアクセシビリティ上の問題を指摘し、改善を進めており、製品の仕様策定や、完成前の製品レビューにも関わっている。
- 障害者や高齢者の在籍するユーザー企業にヒアリングを実施し、意見や要望を製品に反映している。

4. 企業としての取組について、優れている点

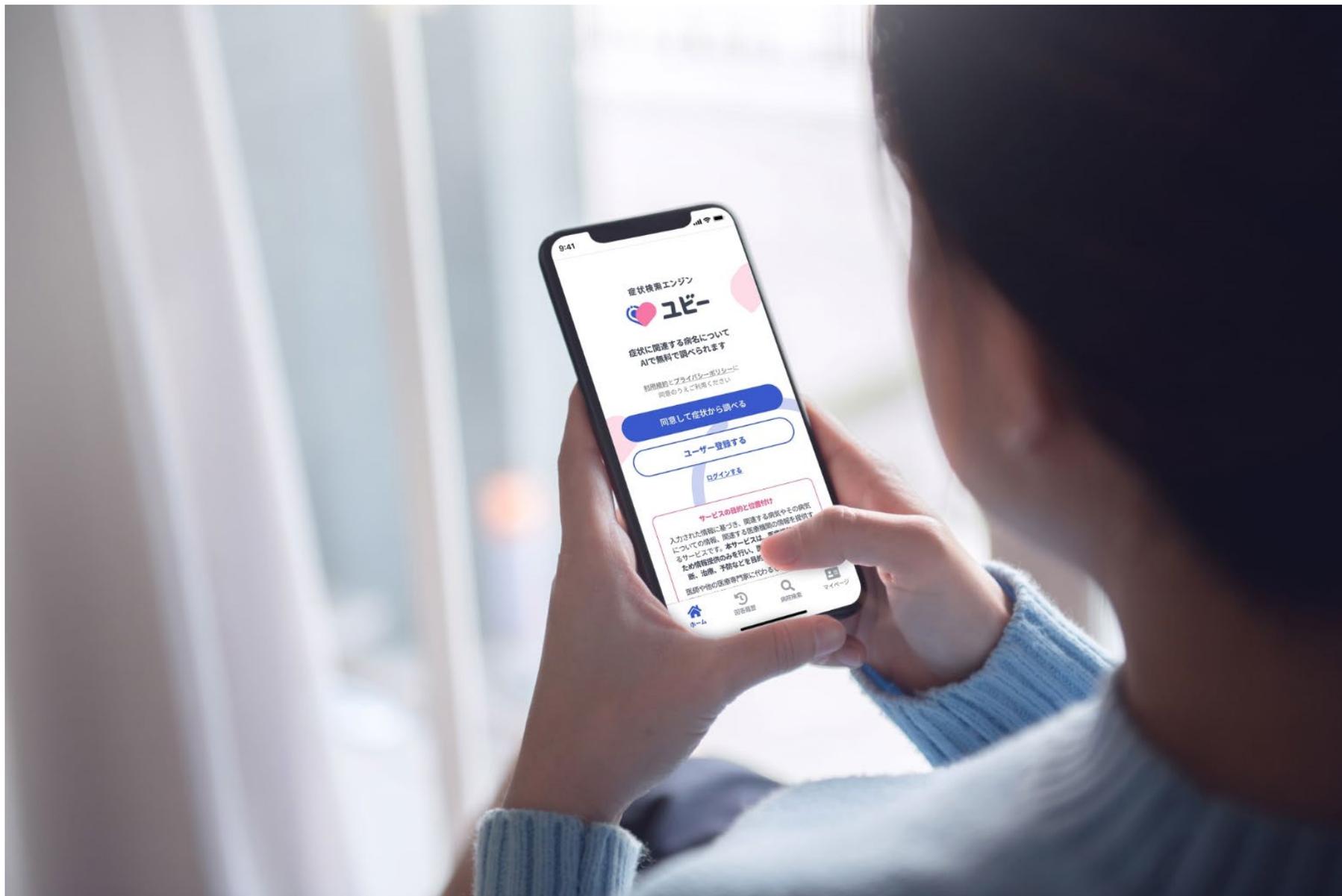
- 就労における人事部門が果たす役割は大きく、本分野にアクセシビリティが確保されることは、障害者雇用の促進や、世の中におけるアクセシビリティの理解度を高めるにあたって重要である。
- 障害当事者が在籍するアクセシビリティを専門とする部署(アクセシビリティ本部)を設立し、全社向けに、アクセシビリティ研修を定期実施している。
- 製品開発に関するアクセシビリティ方針、アクセシビリティガイドラインを策定するとともに、専門家による開発者の育成を行っている。

②③ Ubie(株) ユビー

②③ Ubie(株) ユビー (概要)

企業名	Ubie株式会社
機器・サービス名	症状検索エンジン「ユビー」
問合せ先	https://ubie.life/inquiry
機器・サービスの概要	症状に関連する質問に答えることで、その症状に関連する病気の詳細を調べることができます
機器・サービスの 特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 症状に関連したいくつかの質問に答えることで、関連する病気やその対処法、適切な診療科や、近所の病院・クリニックなどを調べることができます。 ● 回答結果を医療機関に連携することで、スムーズに診察を受けることができます。(一部の医療機関で対応しています。) <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● テキスト色のコントラスト比が 1:4.5 を満たすように設計されており、視力が弱い方や、色覚特性を持つ方でも見やすくなるように配慮されています。 ● タップ領域をなるべく大きく取ることで、指先が不自由な方でも誤タップしにくくなるよう配慮しています。 ● スクリーンリーダーを介してサービスを利用しても情報がきちんと伝達され、問題なく利用できるように設計しています。

②③ Ubie (株) ユビー (概要)



②③ Ubie (株) ユビー (概要)

当事者ニーズを踏まえた開発

別プロダクトの開発時に培った「高齢者ニーズを踏まえたデザイン」をベースに開発を行い、運営していました(参考1)。2021年より、Webアクセシビリティの書籍を出版している専門家とともに、WCAG 2.1に基づく課題抽出を行い、改善を行いました(参考2)。改善反映後、全盲の視覚障害者4名にテストを実施してもらい、問題なく利用できることを確認しました(参考3)。以降、定期的な高齢者・障害当事者ユーザーへのインタビューにより、利用可能であることの確認と、改善点抽出・反映を行っています。同時に、アクセシブルなデザインシステム構築と自動チェックを組み合わせ、製品の品質を継続的に向上しています(参考4)。

- 参考1: <https://note.com/shikichee/n/n1c78ed4b4af7>
- 参考2: https://zenn.dev/ubie_dev/articles/379166d12d5a91
- 参考3: https://note.com/ubie_discovery/n/n21ba666f9c50
- 参考4: https://zenn.dev/ubie_dev/articles/a79ffa23b775b5

企業としての取組

- アクセシビリティ推進を行うチームを組成しています。
- 継続的にアクセシブルな状態を保つために、デザインシステムの構築をし、全社として共通のコンポーネントを運用することを計画、実行中となっています。
- 定期的なユーザビリティテストを実施し、アクセシビリティ上の問題が生じていないかチェックするとともにユーザーの意見をプロダクトデザインに反映しています。

②③ Ubie (株) ユビー (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 傷病については、個人情報として、他者に口外したくない事情等があること等を勘案すると、自宅等から簡単にアクセスできる医療系のアプリケーションは必要なツールである。
- 症状検索エンジンが高齢者・障害当事者にとって使いやすいように工夫されている。
- 質問に答えるだけで関連する病気や対処法、適切な診療科や近所の病院を調べることが出来る。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 基本的にタッチ操作であるが、TalkBackやVoiceOverでも検証し改善に努めている。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供するアプリケーション価値

- —

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 可能であれば、画面の見た目への検証として、弱視(ロービジョン)を考慮することを期待する。
- コンテンツ側ではアクセシビリティ対応せず、スマートフォン等のOS側にそれを委ねているが、十分でない恐れがあり、コンテンツ側(アプリケーション自体)で対応する方向に向かうことを期待する。

②③ Ubie (株) ユビー (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 製品開発時に、ウェブアクセシビリティの専門家とWCAG 2.1(ウェブコンテンツアクセシビリティガイドライン)に対応しているか否かを検討し、全盲者4名によるモニター検証を実施している。さらに、開発後も高齢者・障害当事者の意見を聞いて製品改良を行っている。

4. 企業としての取組について、優れている点

- アクセシビリティ推進チームを組成し、定期的なユーザビリティテストの実施やユーザーへの意見等を製品に反映する仕組みを取り入れている。また、このような取組を実施する姿勢が評価できる。

②④ Uni-Voice事業企画(株) Uni-Voice Blind

②④ Uni-Voice事業企画(株) Uni-Voice Blind

企業名	Uni-Voice事業企画株式会社
機器・サービス名	Uni-Voice Blind
問合せ先	info/atmark/uni-voice.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	視覚障がい者向け音声コード読み取り用スマートフォンアプリ(無料)
機器・サービスの 特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 印刷物や観光地の解説サインに印刷されている音声コードUni-Voiceを読み取ることで、内容をテキストと音声の両方で確認することができます。点字が使用できない約9割の視覚障がい者でも晴眼者と同じように文字情報を取得することができます。 ● ルート案内用の音声コード(NAVIコード)を読み取ることで、インジケータと音声、振動で目的地まで誘導します。地図が読めない視覚障がい者の方でも目的地に辿り着くことができます。 ● 音声コードの読み取り機能の他にも、「耳で聴くWebサイト」「耳で聴くハザードマップ」など、視覚障がい者の暮らしをサポートする機能を備えています。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スクリーンリーダーに完全に準拠しているため、視覚障がい者だけでなく、点字ディスプレイを介して盲ろう者も利用できます。 ● 色のコントラストに配慮し、大きくて見やすいボタンを採用。テキストも拡大することができるため、弱視の方だけでなく、小さい文字が読みづらい高齢者にも利用しやすくなっています。 ● アプリ内コンテンツの耳で聴くWebポータルサイトでは内容を音声で聴くことができます。 (https://site.uni-voice.biz/portal/reading-hp) コンテンツの構成も単純であるため、通常のWebサイトが扱いづらい視覚障がい者でも容易にニュースや自治体の新着情報を取得することができます。

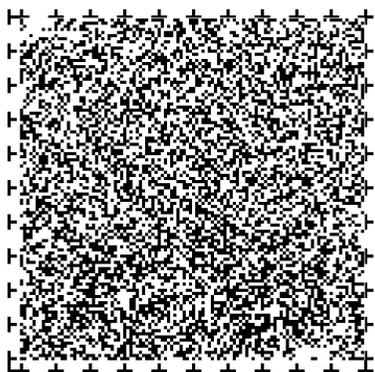
Uni-Voice Blindの利用方法



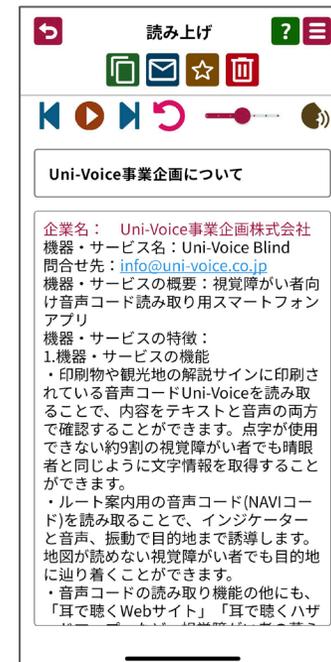
- ①印刷物の右下に付いている半円の切り欠きを触って位置を確認し、②スキャンが完了すると、画面に文字情報音声コードをアプリでスキャンします。

が表示され、同時に音声で内容を読み上げます。

音声コードUni-Voiceについて



- ◆ コード内に約 800 文字記録可能
- ◆ Uni-Voice Blindで読み取ると、コードに含まれた文字情報を表示し、音声で読み上げ
- ◆ コードそのものに文字情報が記録可能なため、オフライン環境でも利用可能
- ◆ 印刷物に音声コードを付けることで、視覚に障害ある人でも”自分で情報を得る”ことが可能に



実際のアプリでの画面表示



アプリの利用は無料です。ぜひお試しください。

Uni-Voice Blind



②④ Uni-Voice事業企画(株) Uni-Voice Blind

当事者ニーズを踏まえた開発

「視覚障がい者にとって、より使いやすい音声コード読み取りアプリ」として Uni-Voice Blindは開発されました。開発するからには、「視覚障がい者が使えること」が必須条件です。そのため企画・設計・試作品のテスト段階においては視覚障がい当事者の方々にも携わっていただき、その中で出た意見を取り入れながら開発を行ってまいりました。その結果、全盲、弱視を問わず視覚障がい者が使いやすいアプリとなりました。全盲の方には欠かせないスクリーンリーダーに完全に準拠し、弱視の方に配慮した大きくてコントラストがはっきりしたボタンを採用。また、両者に共通して必要な、単純なコンテンツ構成となっております。

企業としての取組

情報アクセシビリティに取り組むための対応として、弊社では日頃より視覚障がい当事者の方々からの声をもとに製品やサービスの開発を行っております。この”声”というのは、もちろん日常生活において不便と感じていることへの悩みの声です。その声から、弊社では音声コード読み取り用アプリをはじめとして、現在では音声読上げ形式のWebサイト「耳で聴くWebサイト」や、地図面も音声で聞くことができる「耳で聴くハザードマップ」の開発を行ってまいりました。今後もすべての視覚障がい者が「読める」社会を目指し、新しい価値を創造してまいります。

②4 Uni-Voice事業企画(株) Uni-Voice Blind (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 視覚障害者は、音声コードUni-Voiceを通じて多種の印刷物や観光情報・案内ルート、ハザードマップ等の情報を音声で容易に取得できる。これにより、視覚障害者のアクセスが困難だった印刷物(郵便物、公共料金の請求書、保険加入源泉徴収票等)の文字情報を音声情報として取得することが可能。
- ・ ハザードマップは通常地図で配布されるが、本アプリケーションでは音声コードを用いることで音声とテキストで確認できる。これにより、視覚障害者や高齢者でも情報を得やすくなる。
- ・ 日常的に利用するアプリケーション(天気等の確認)に災害時対処の案内機能が付随しており、利用者は災害時にも日常的に利用するアプリケーションで状況を確認できる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 全盲のユーザーの利用を前提としており、スマートフォンのスクリーンリーダーの読み上げに完全に対応し、1文字ずつの確認も可能である。アイコンは大きく、3×4の画一的な配置により探しやすい。
- ・ テキストの拡大表示も可能であるため、聴覚に障害のある盲ろう者でも活用できる可能性がある。
- ・ 手話情報が記録されている場合、手話設定をオンにすると手話動画が再生される。これは、文章が苦手なろうベースの盲ろう者にとって有用な機能である。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 音声コードの普及が求められるため、行政等との更なる協力を期待したい。インフラ側へのNAVIコード、SPOTコードの付与拡充を期待したい。
- ・ コード作成アプリケーションは、地方公共団体に無償、法人に有償で提供されている。個人でも利用できると助かる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 弱視や色覚多様性の人にとって、見やすさに関する機能があると利用者の幅が広がる可能性がある。読み上げ機能も有効であるが、見やすさを調整できる機能を期待したい。
- ・ 盲ろう者のiPad利用が増えており、アプリケーション内で文字の拡大設定ができること、画面内で改行されることを期待したい。
- ・ 盲ろう者にとっては、音声コードの読み取りタイミングが分かりにくいいため、振動でお知らせする機能を期待したい。

②④ Uni-Voice事業企画(株) Uni-Voice Blind (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 視覚障害者からのフィードバックが積極的に取り入れられており、企画・設計・試作品のテストにおける全ての段階において、視覚障害者が関与している。
- 日本視覚障がい情報普及支援協会とのパートナーシップを通じて、当事者のニーズに基づいた開発が行われている。
- 視覚障害者との対話を通じて日常生活の悩みを聞き取り、開発品に反映させている。
- 全盲者だけでなく、弱視者(ロービジョン)の意見も取り入れていることがわかる。このようなやり方を標準として、他の製品においても取り組んでもらいたい。サポートについても丁寧に対応されていることがわかる。

4. 企業としての取組について、優れている点

- すべての視覚障害者が「読める」社会を目指し、視覚障害者からの声を基に製品やサービスを開発している。
- 企業ビジョンとして、すべての人が情報を共有できるユニバーサルデザイン社会や共生社会の実現を目指している。
- 社会的ニーズをくみ取り、ハザードマップなどの災害情報の提供について積極的にサービスに取り込んでいる。
- 音声コードを核に製品開発を進めており、企業としての出発点から視覚障害者の利用を意識している。
- 視覚障害者の情報保障を、文章の音声化だけでなく、ハザードマップの音声化や道案内の音声と振動による誘導など、多様な形で展開されている。